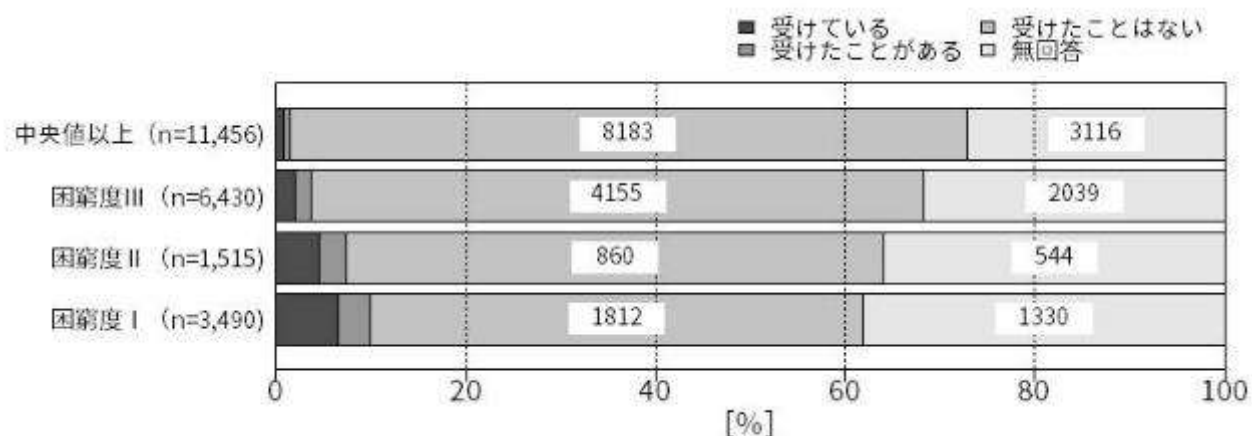


困窮度別に見た、養育費（保護者票 問 30(3)⑨)

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

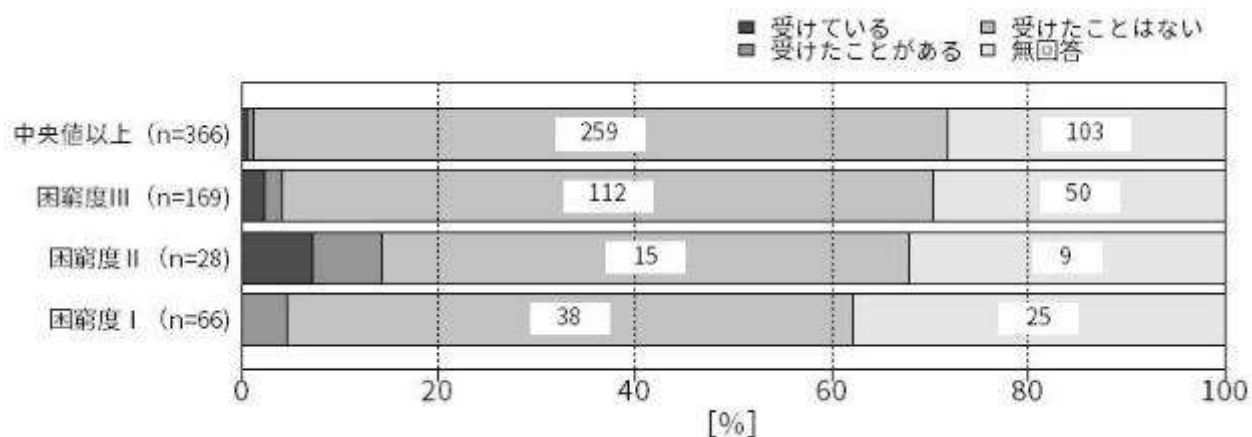


図 152. 困窮度別に見た、養育費

困窮度別に養育費の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては、「受けている」と回答した人は該当なしで、「受けたことはない」と回答した人は 57.6%であった。

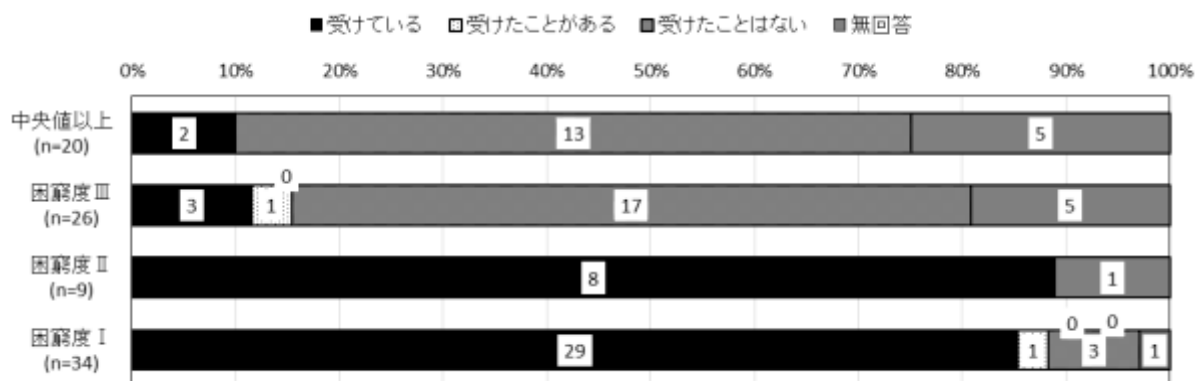
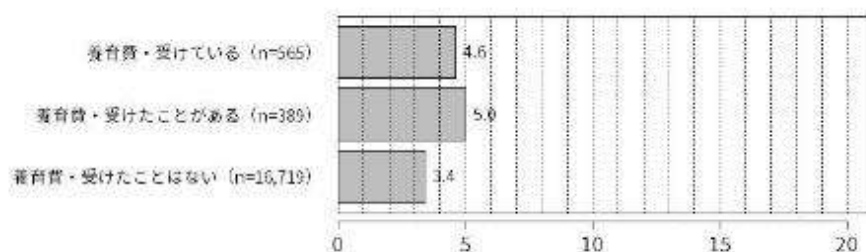


図 152 の補足図. 困窮度別に見た、養育費（ひとり親）

養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 7)

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

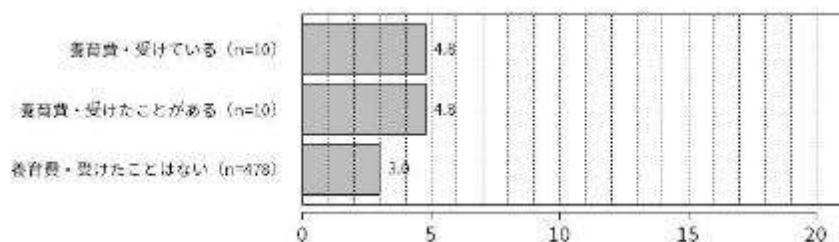
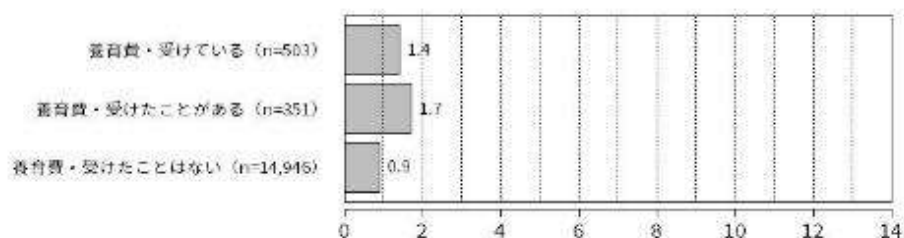


図 153. 養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている・受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均はそれぞれ 4.8 個、4.8 個であった。

養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 30(3)⑨ × 保護者票問 13)

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

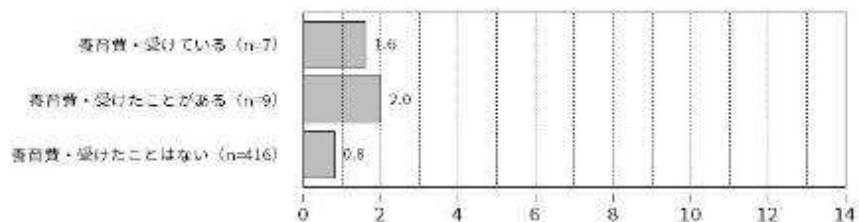
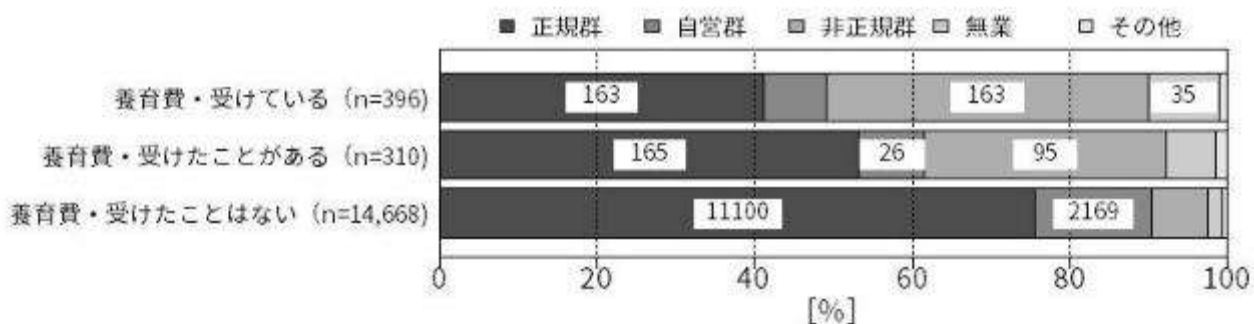


図 154. 養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を「受けている」回答者は 7 人しかおらず、養育費の受給別に子どもへの経済的な理由による経験の該当数について述べることはできない。養育費を受けている・受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均はそれぞれ 1.6 個、2.0 個であった。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

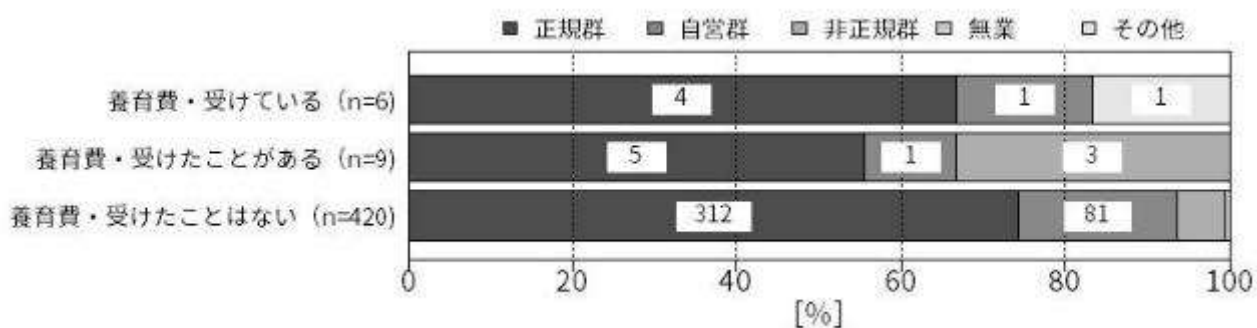


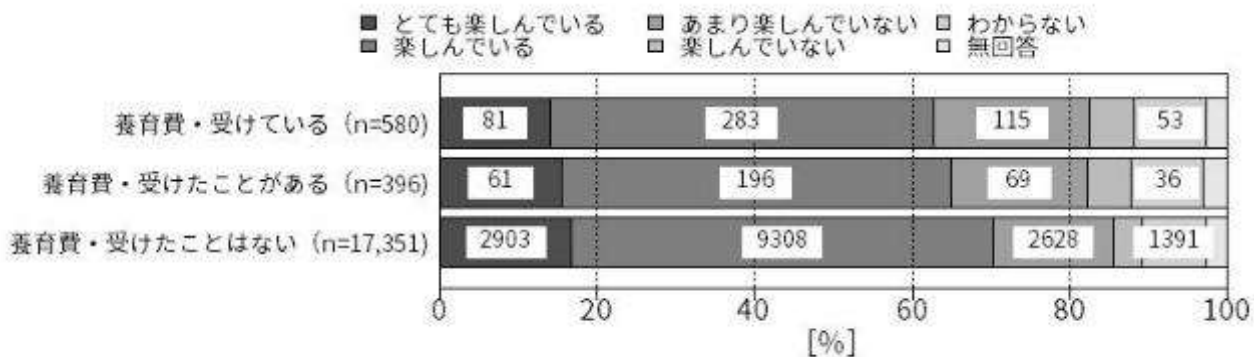
図 155. 養育費の受給別に見た、就労状況

養育費を「受けている」回答者は 6 人しかおらず、養育費の受給別に就労状況について述べることはできない。養育費を受けたことがない世帯では「非正規群」が 6.0%、「無業」が 0.5%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

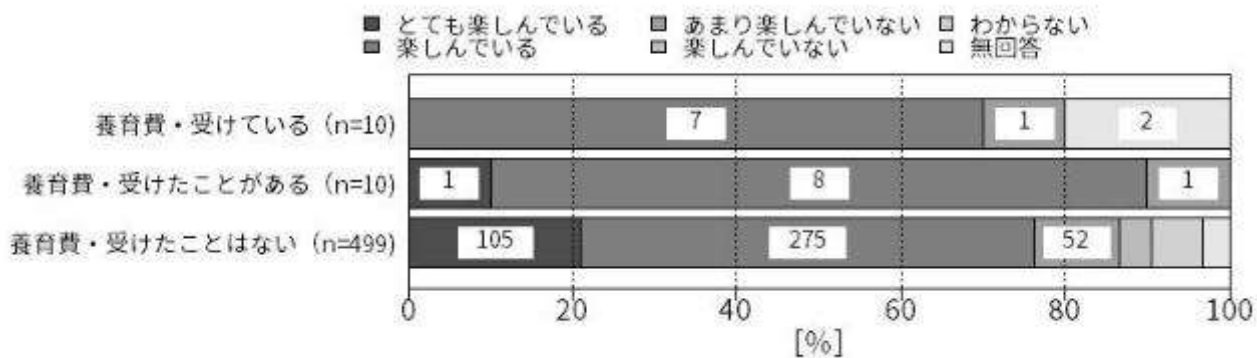


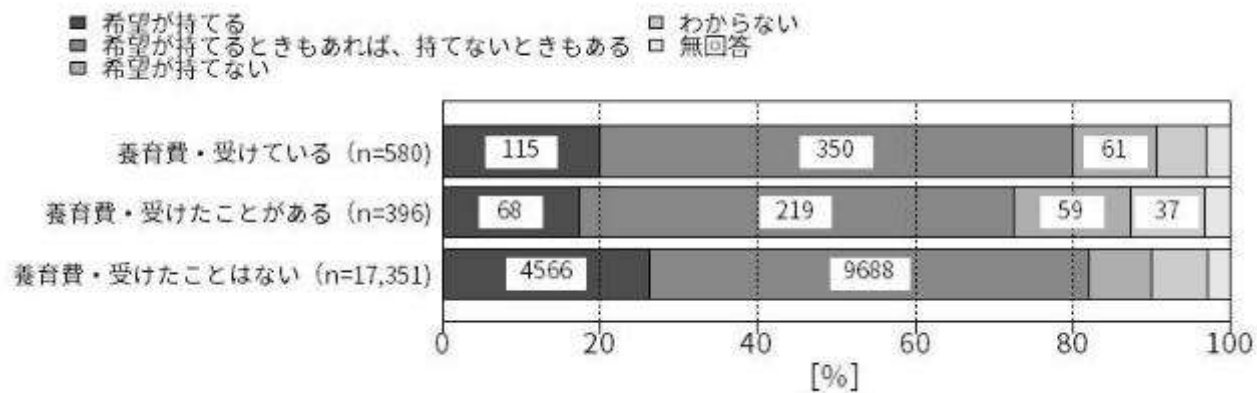
図 156. 養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。生活を「楽しんでいる」と回答したのは、養育費を受けている・受けたことがある世帯では該当なし、養育費を受けない世帯では4.0%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

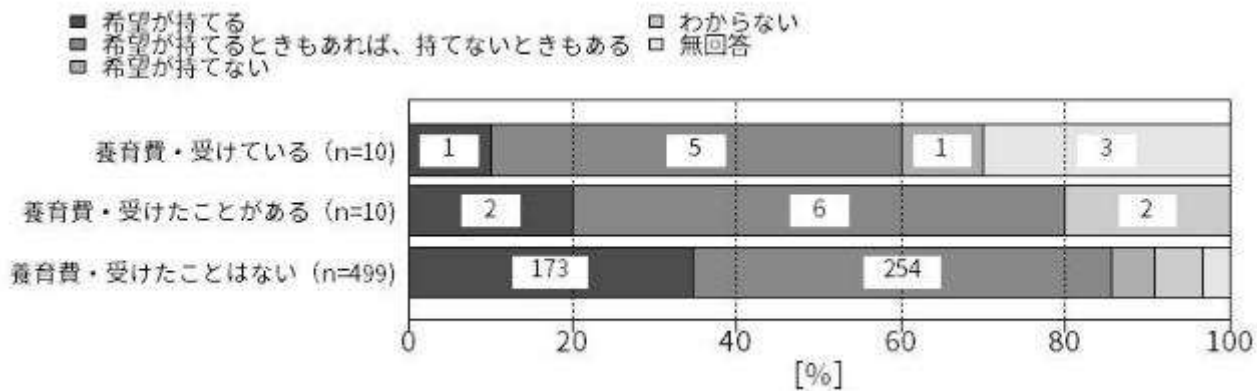


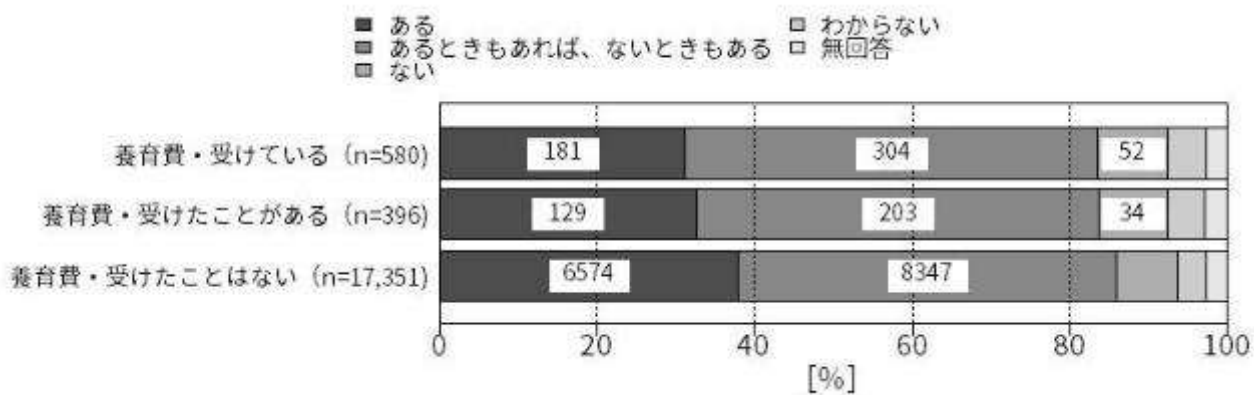
図 157. 養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「希望が持てない」が 10.0%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では該当なし、養育費を受けない世帯では 5.2%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

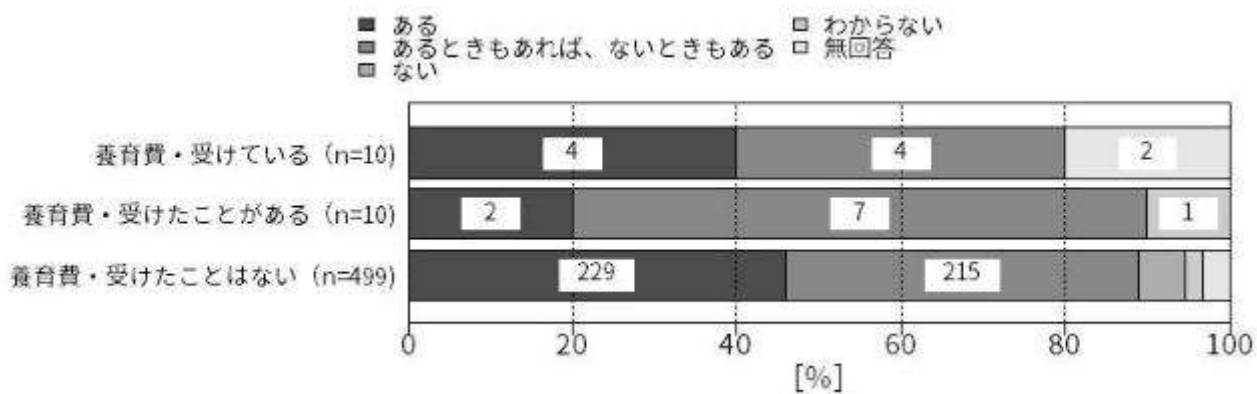


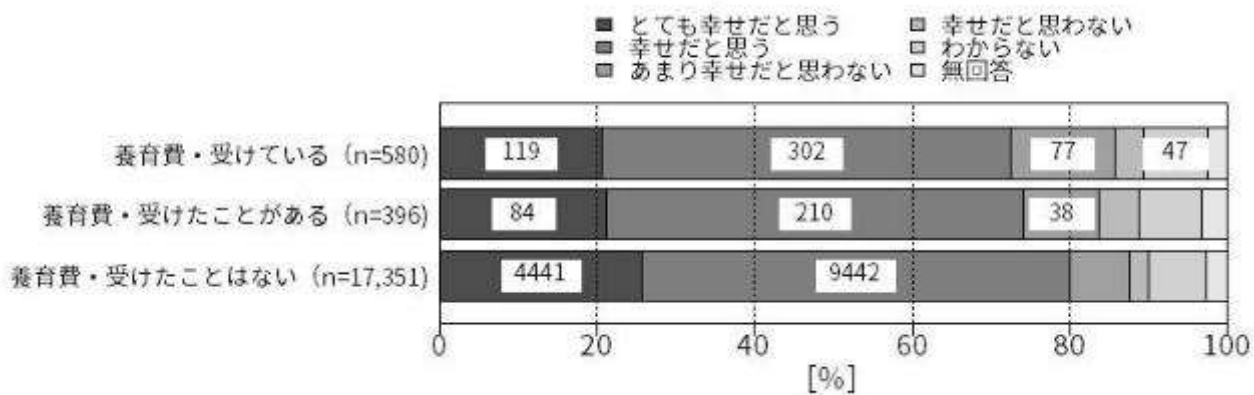
図 158. 養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。ストレス発散できるものが「ない」と回答したのは、養育費を受けている・受けたことがある世帯では該当なし、養育費を受けたことはない世帯では 5.6%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

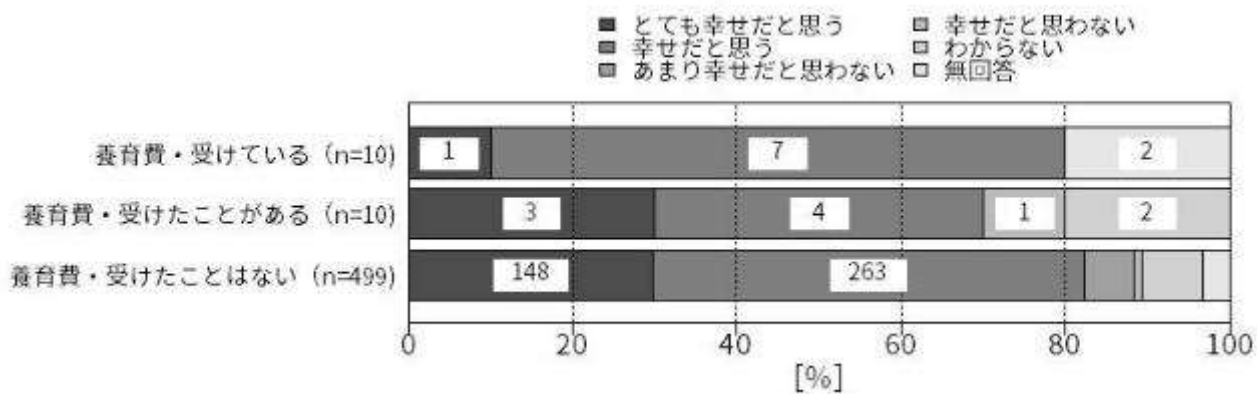


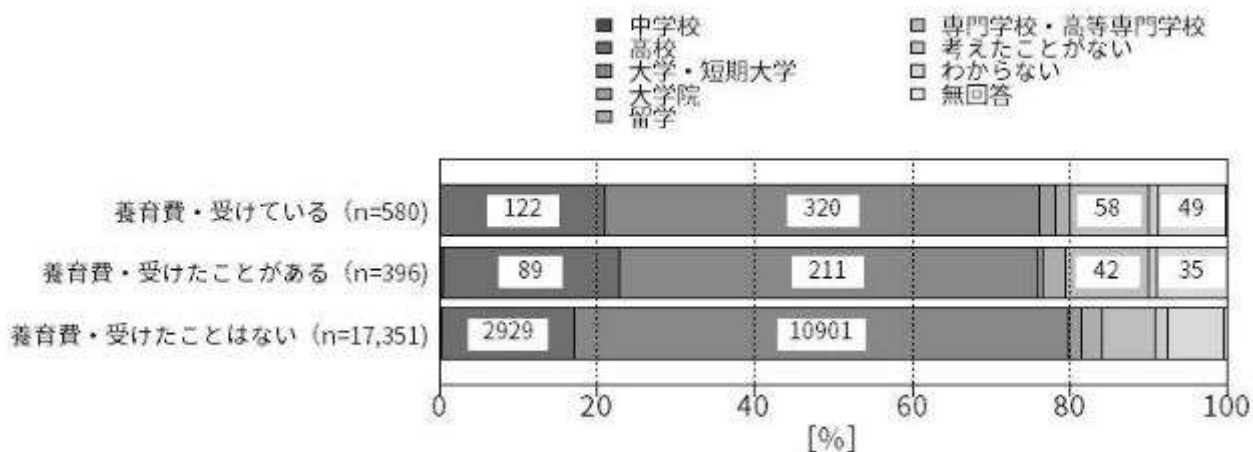
図 159. 養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「幸せだと思わない」が該当なしであるのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 10.0%、養育費を受けたことはない世帯では 1.0%であった。

養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

(保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

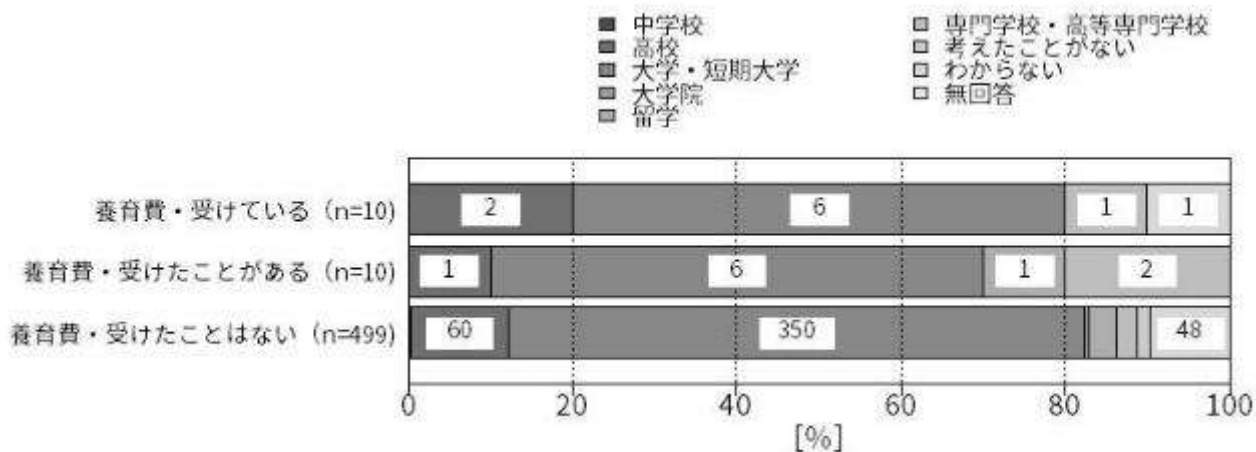
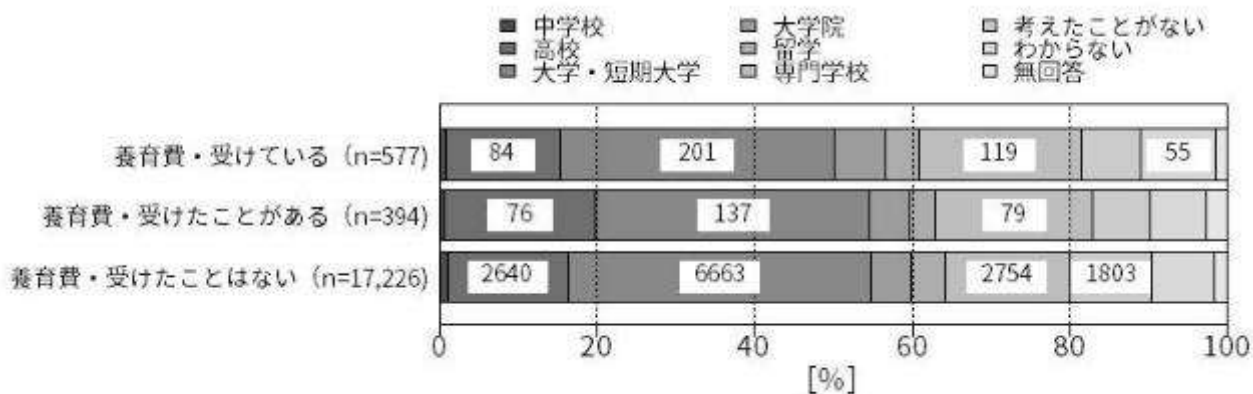


図 160. 養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 60.0%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 60.0%、養育費を受けない世帯では 70.1%であった。

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

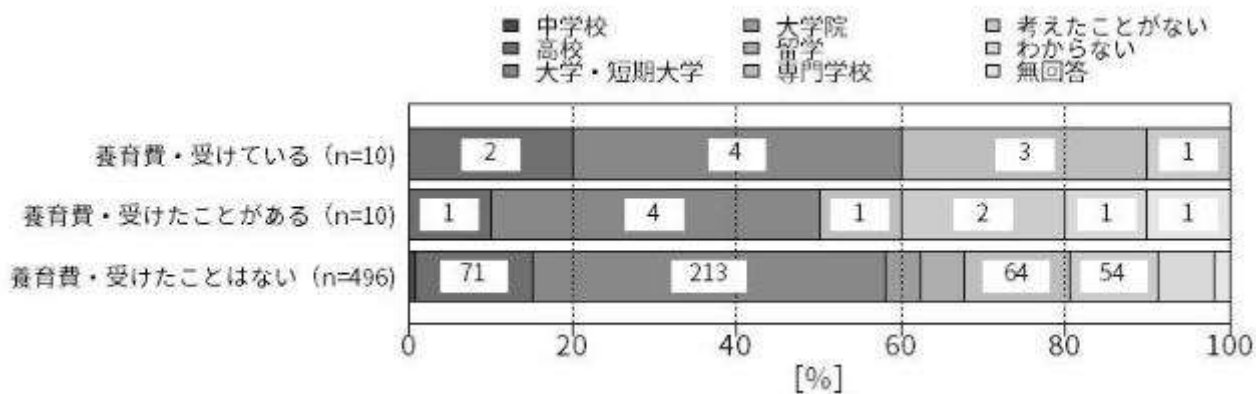
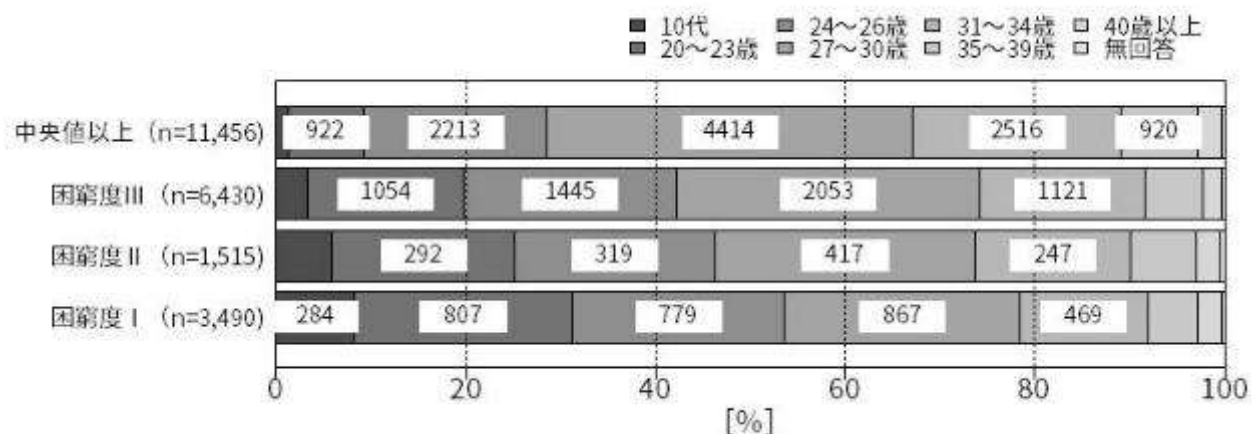


図 161. 養育費の受給別に見た、希望する進学先

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 40.0%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 40.0%、養育費を受けない世帯では 42.9%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

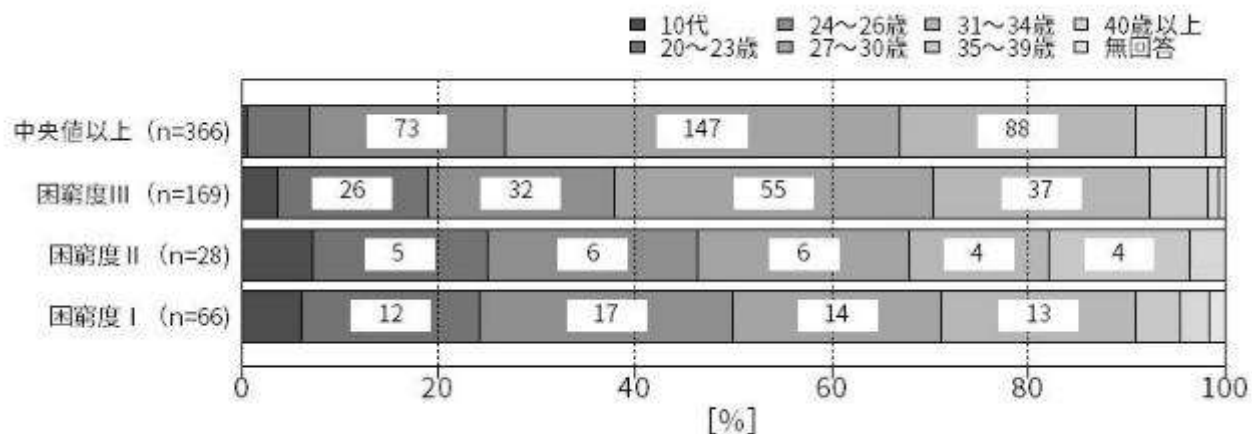


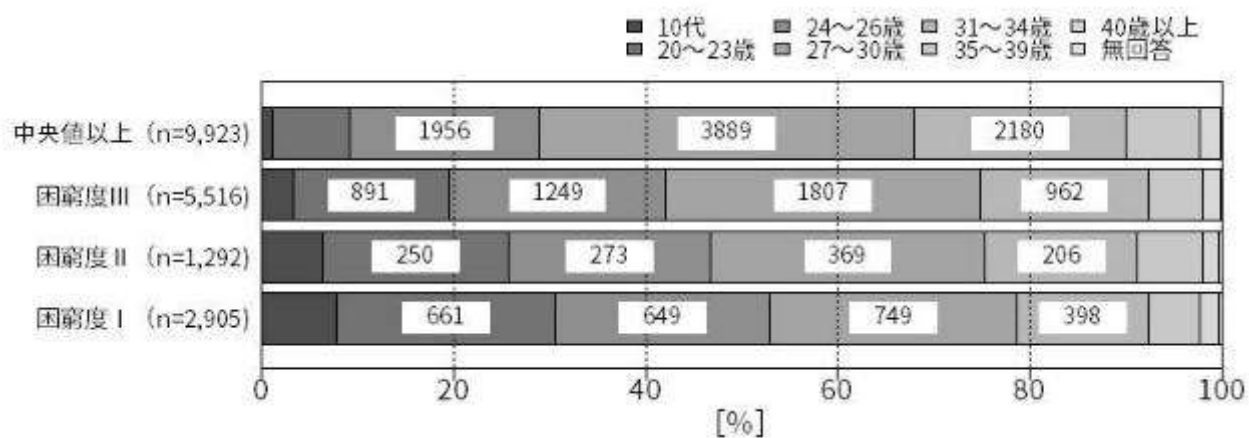
図 162. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で10代で初めて親となったと答えた割合は6.1%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票 問 22）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

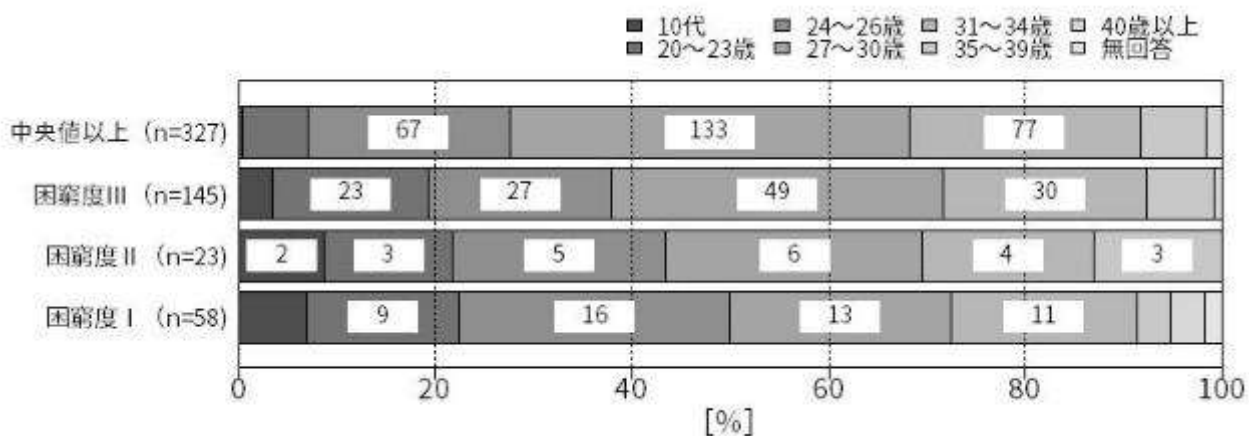
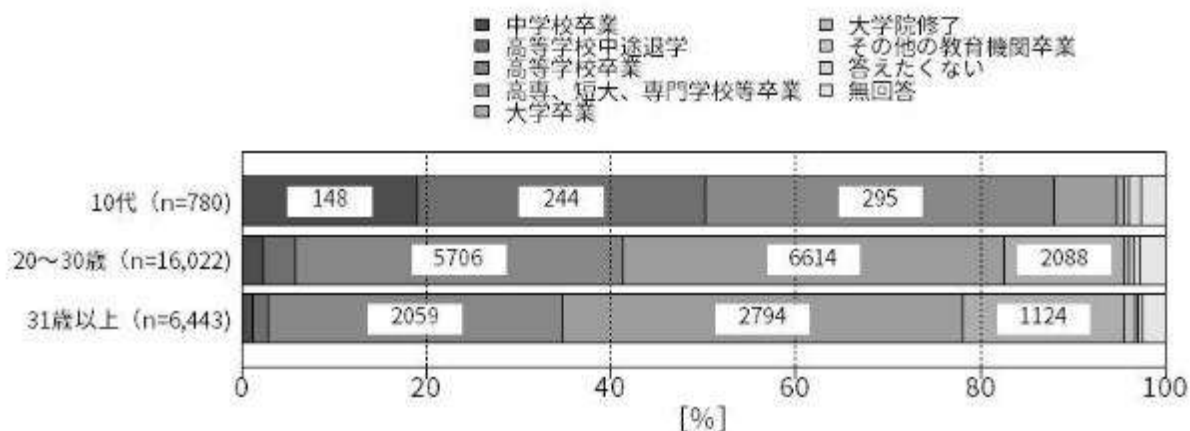


図 163. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で10代で初めて親となったと答えた割合は6.9%であった。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴（保護者票 問 22 × 保護者票 問 8）
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

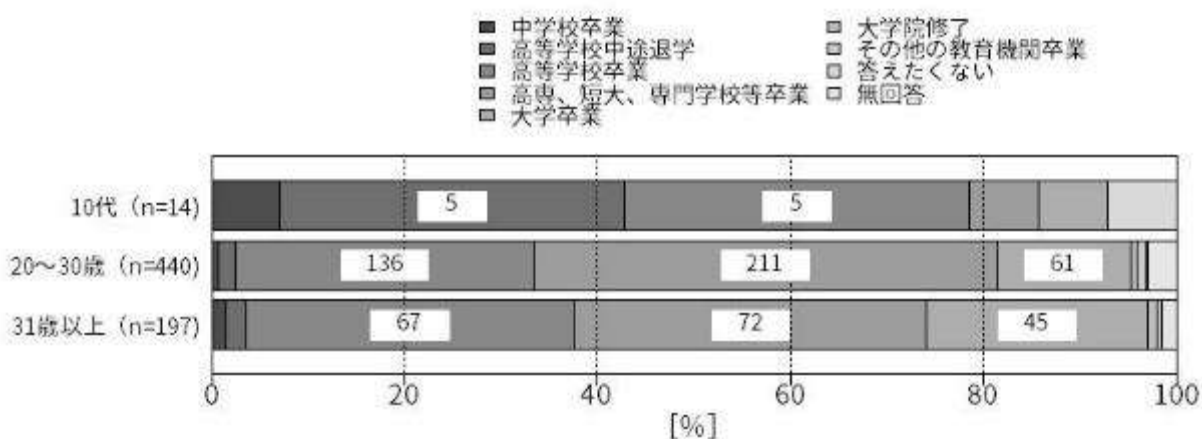


図 164. 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴
 ※母親が回答者の場合に限定

「初めて親となった年齢」を基準に、10代で初めて親となった10代群、平均出産年齢以下の年齢で初めて親となった平均以下群（20～30歳）、平均出産年齢以上の年齢で初めて親となった平均以上群（31歳以上）を設けた（平均出産年齢については下記 URL を参照）。

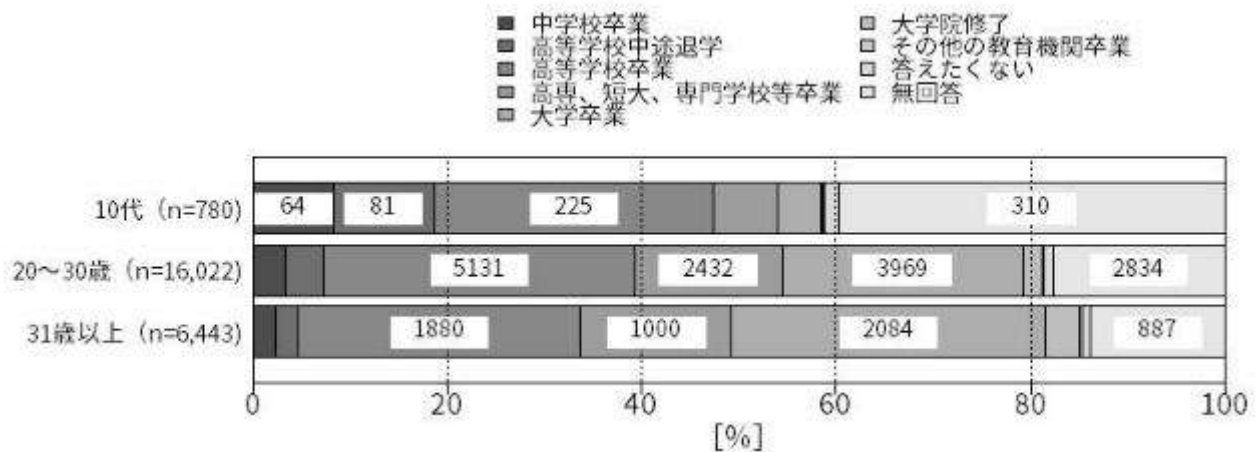
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に母親自身の最終学歴を見ると、10代群において「中学校卒業」と答えた割合は 7.1%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は 35.7%であった。

平均出産年齢：

http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25webhonpen/html/b1_s1-1.html

初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴（保護者票 問 22 × 保護者票 問 8）
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

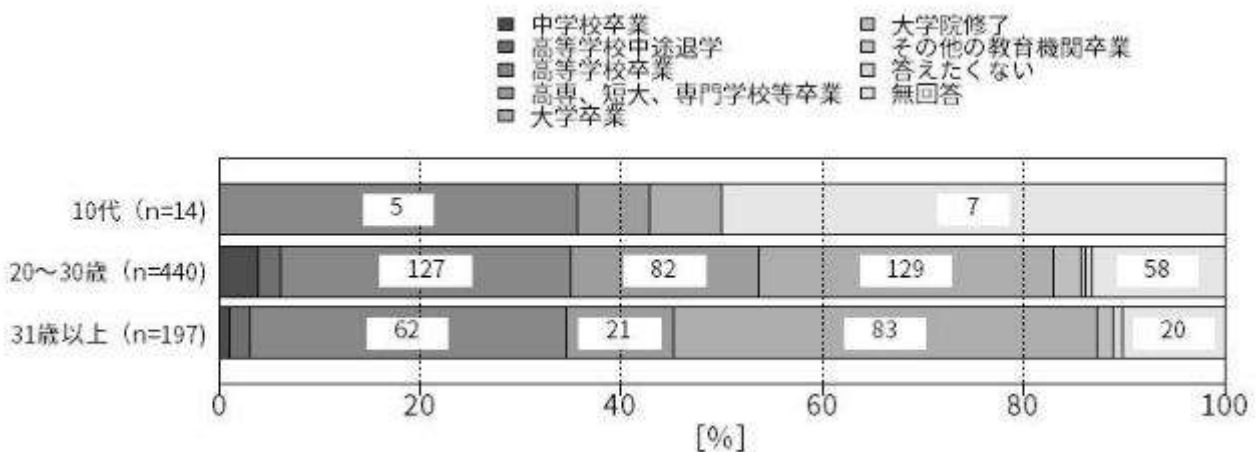
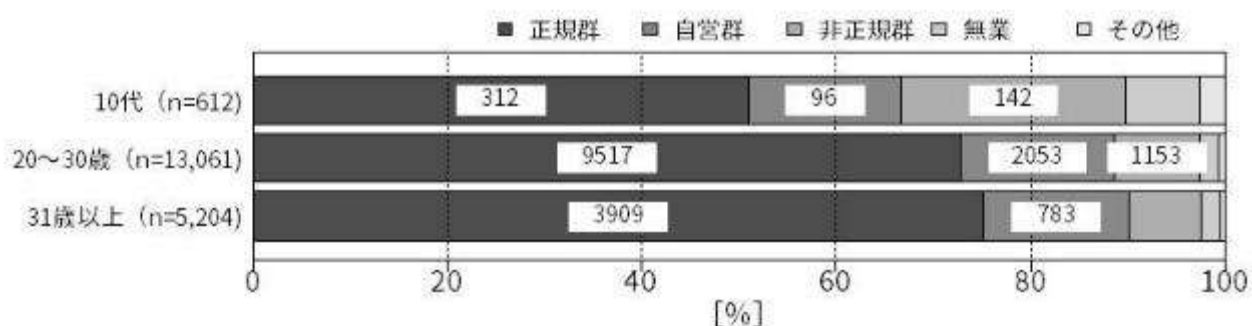


図 165. 初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に父親の最終学歴を見ると、10 代群において「中学校卒業」、「高等学校中途退学」は該当なしだった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票 問 22 × 保護者票 就労状況）
※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

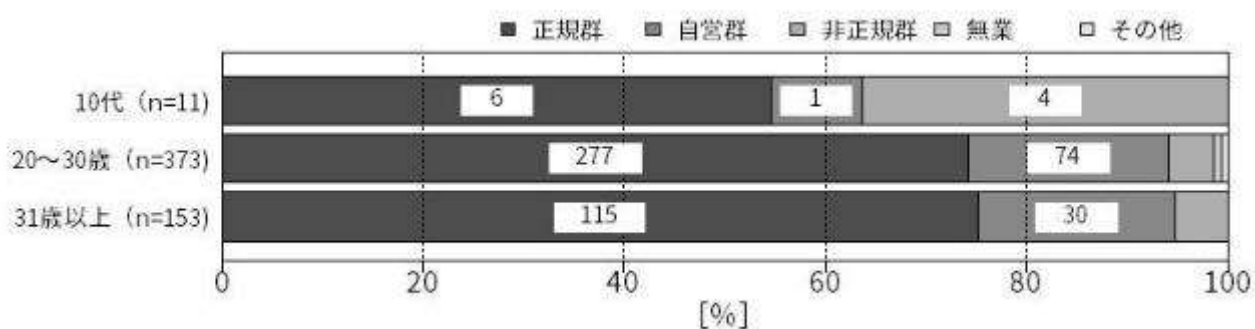
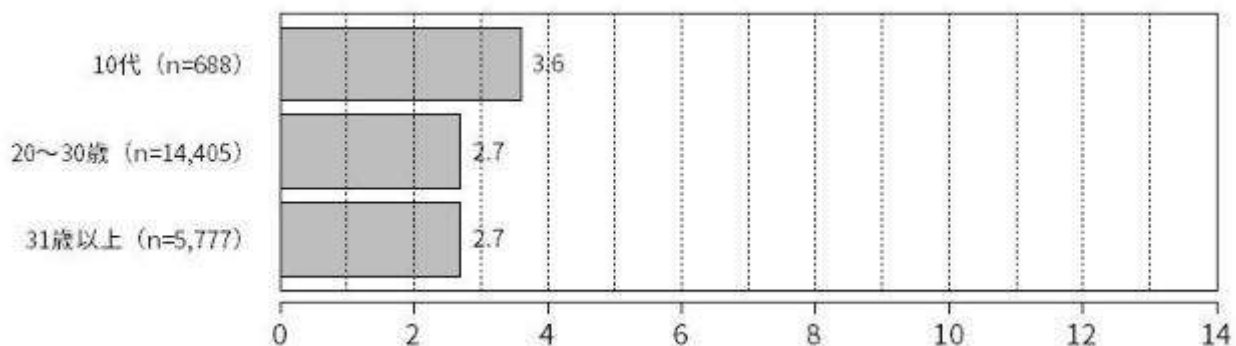


図 166. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に就労状況を見ると、10 代群は「正規群」が 54.5%、「非正規群」の割合が 36.4%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票 問 22 × 保護者票 問 26) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

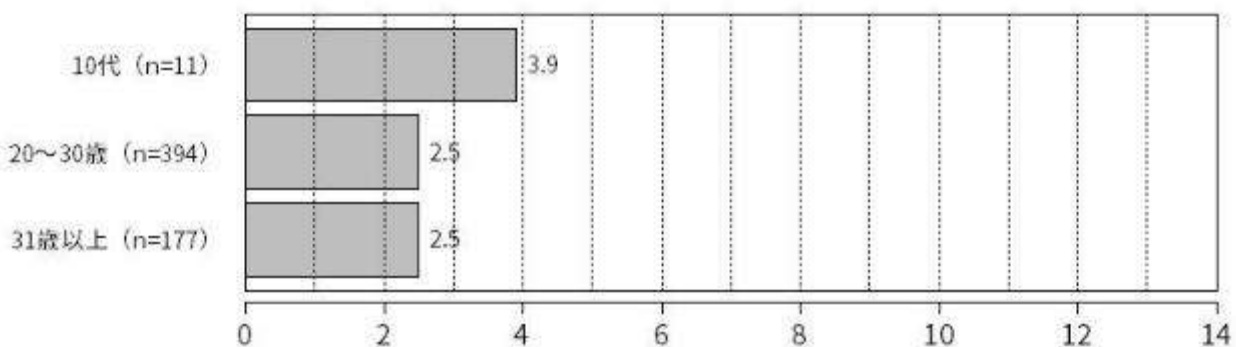
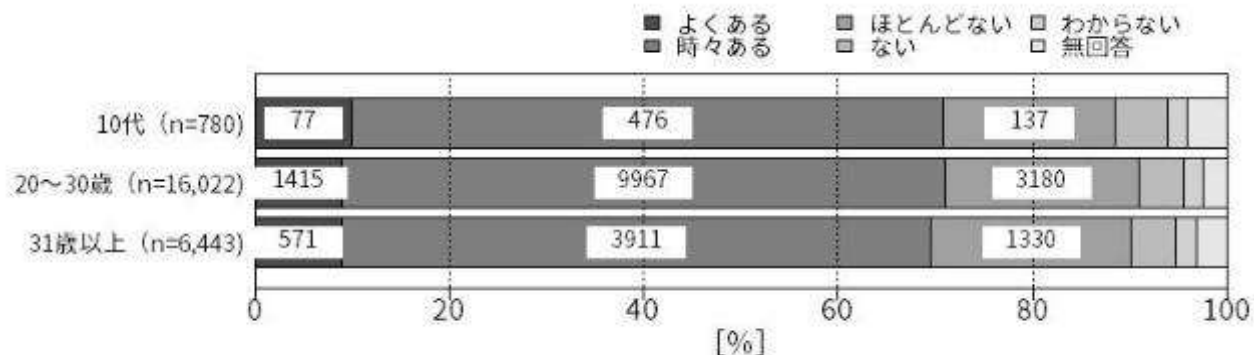


図 167. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10 代群は 3.9 個であった。

初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
 （保護者票 問 22 × 保護者票 問 27） ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

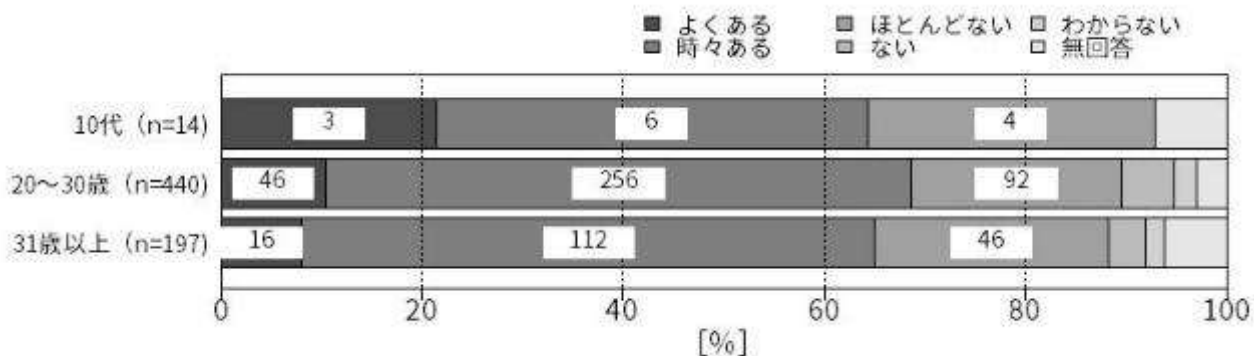
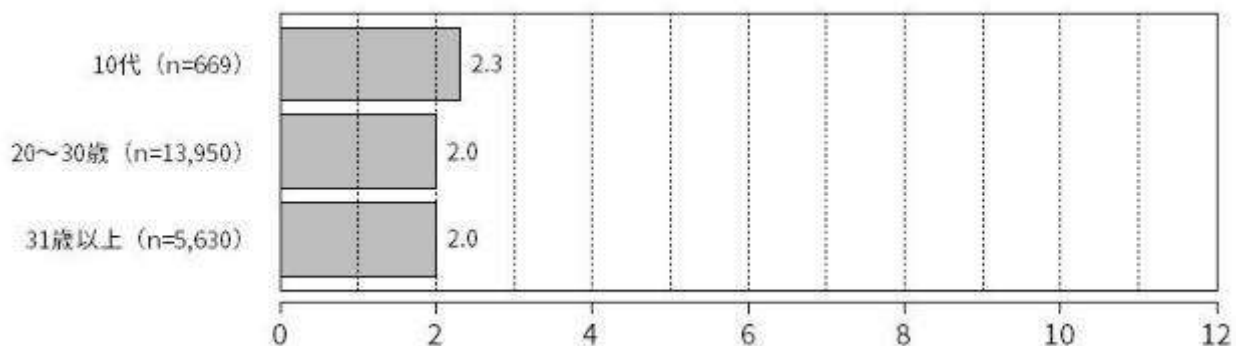


図 168. 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10 代群は、「よくある」と回答した割合は 21.4%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票 問 22 × 子ども票 問 24) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

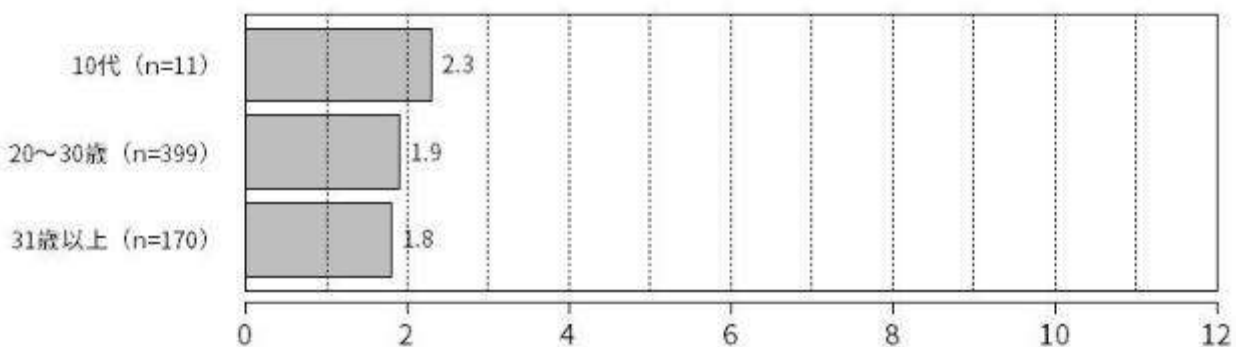
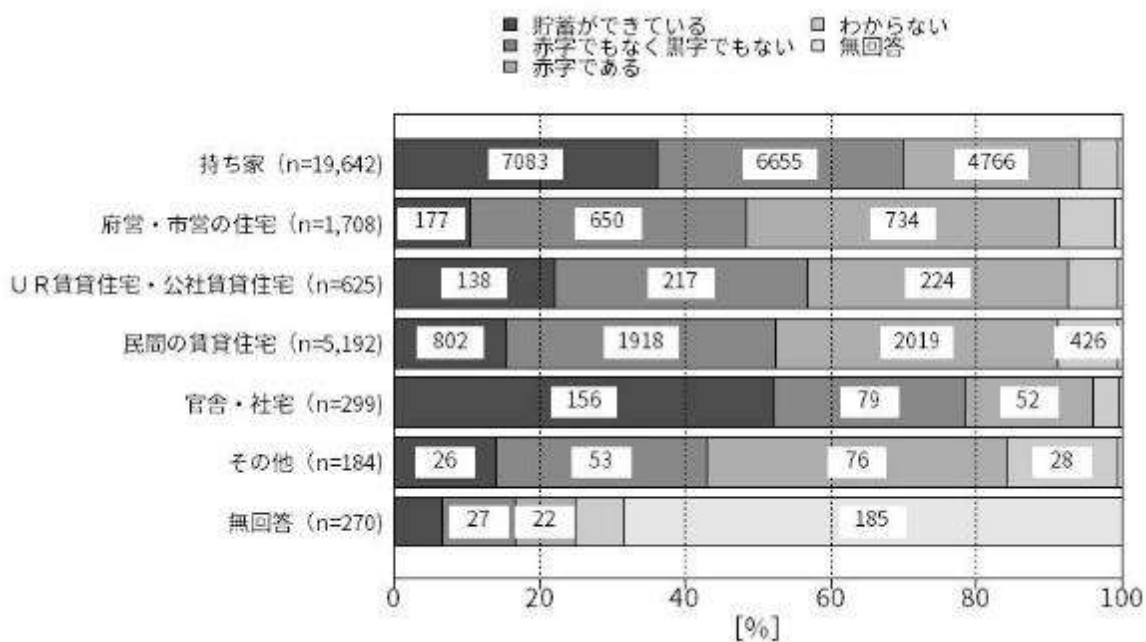


図 169. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代群では2.3個であった。

住居別に見た、家計状況（保護者票 問4 × 保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

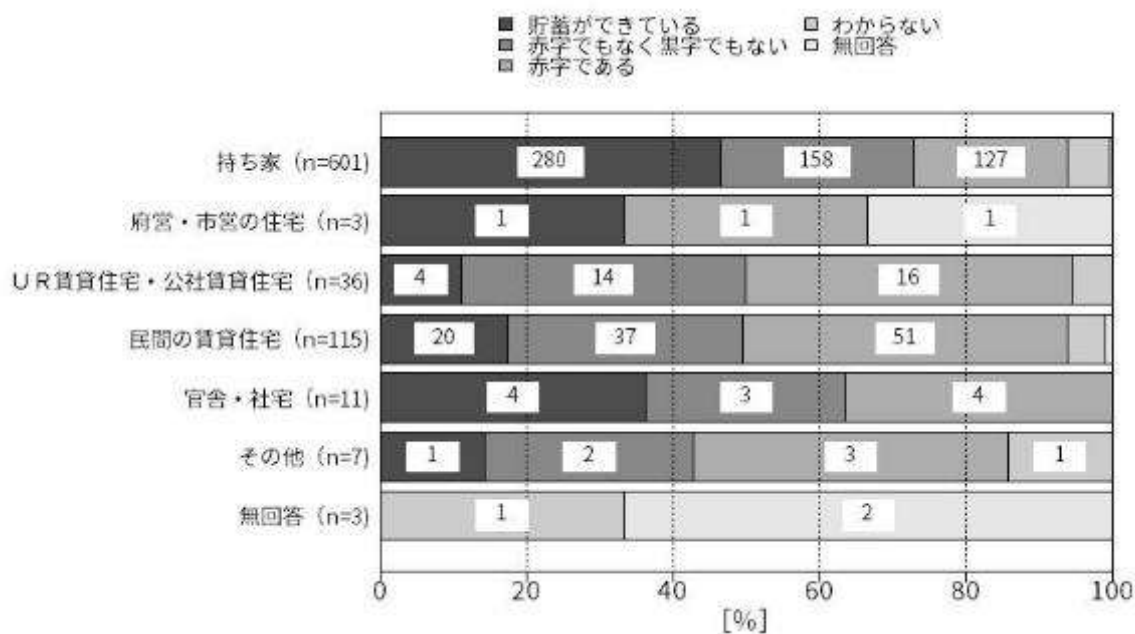
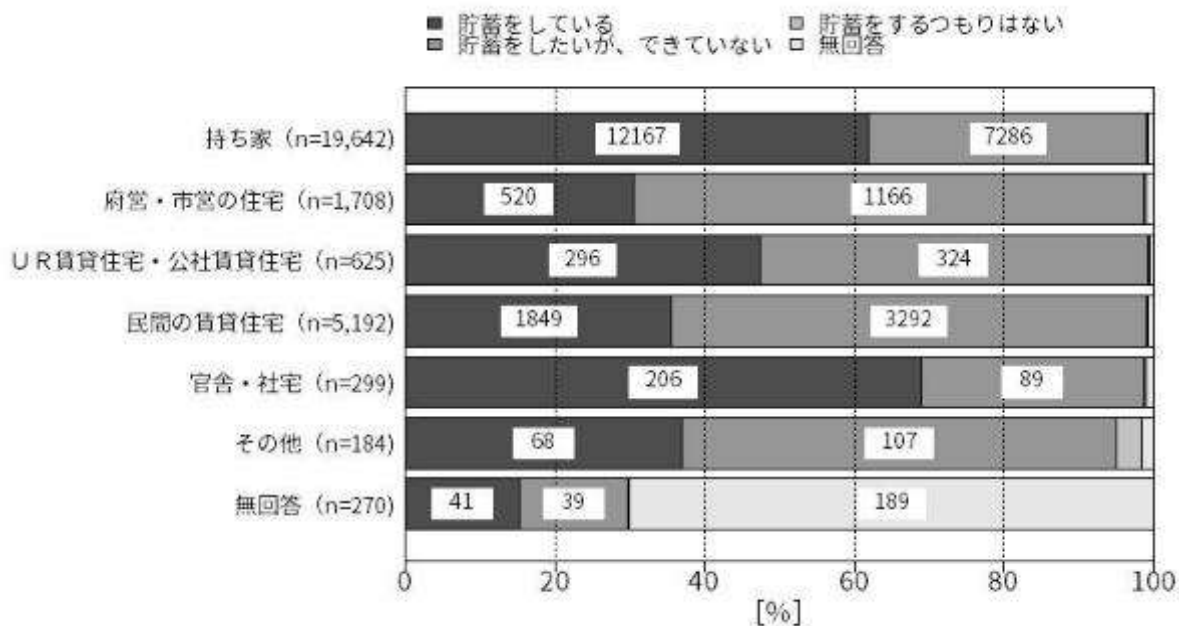


図 170. 住居別に見た、家計状況

「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では33.3%、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では44.4%、民間の賃貸住宅に住む人では44.3%であった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は21.1%であった。

住居別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問4 × 保護者票 問6(3)）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

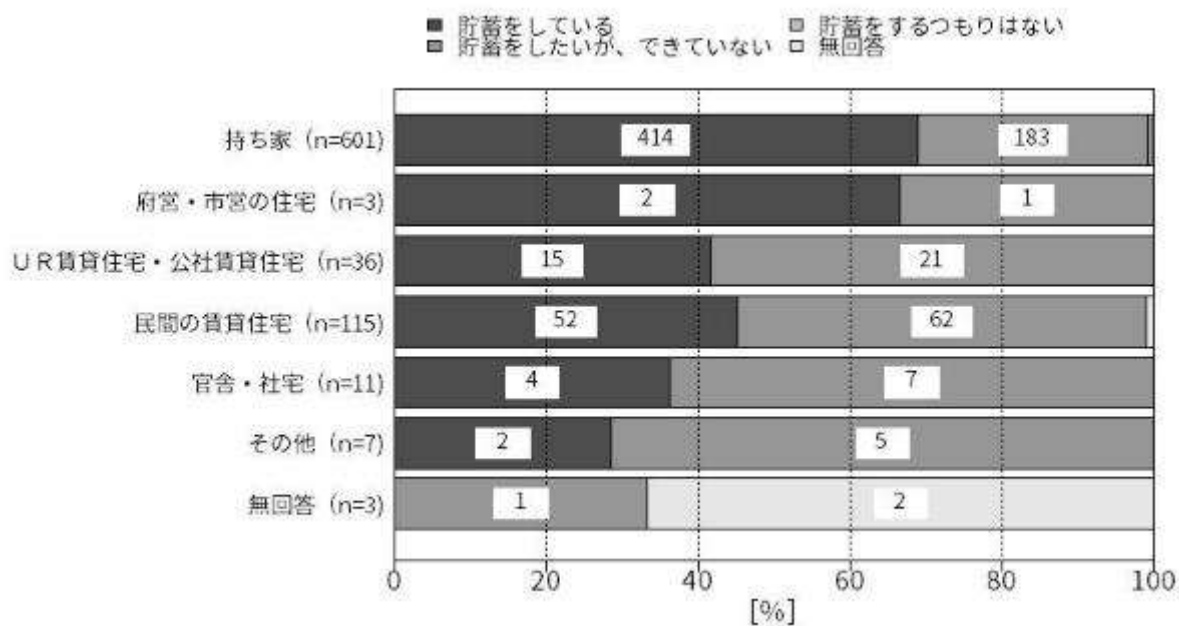


図 171. 住居別に見た、子どものための貯蓄

「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 33.3%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 58.3%、民間の賃貸住宅に住む人では 53.9% であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 30.4% であった。

<家庭状況に関する考察>

社会保障給付の利用状況について、困窮度Ⅰ群における各制度の利用率を挙げると、児童手当 98.5%（大阪市 93.2%）、就学援助費 66.7%（大阪市 64.4%）、児童扶養手当（ひとり親世帯を分母にした場合）85.3%（大阪市 76.2%）、生活保護制度 4.5%（大阪市 9.6%）である。

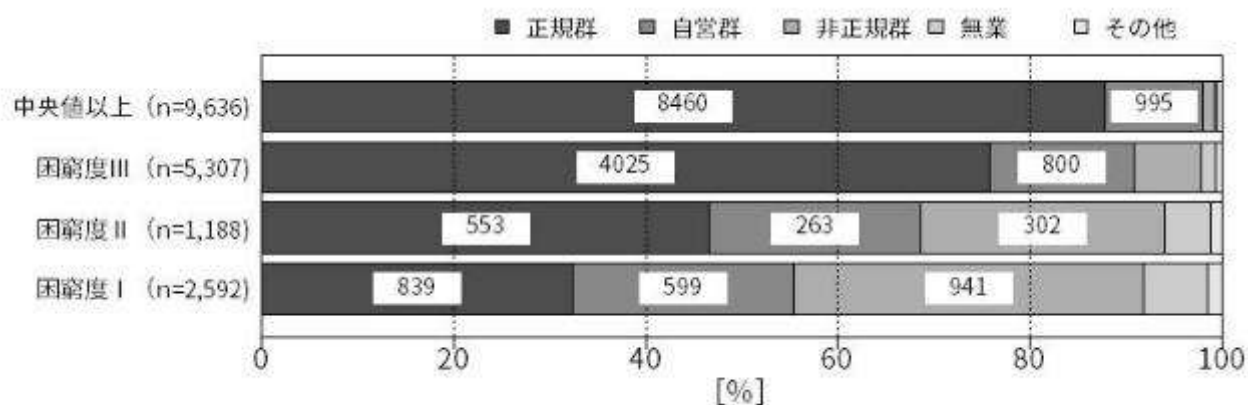
母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、10代で初めて親となったと答えた割合が高くなっている。10代群において「中学校卒業」または「高等学校中途退学」と回答した割合が高くなっている。就労状況を見ると、10代群は他の群と比較して「正規群」の割合が低くなっている（大阪市の傾向とは同じ）。また、他の群と比較して、自分の体や気持ちで気になると回答したことの数が多い。不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答した割合が高い。

「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（33.3%）、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅（44.4%）、民間の賃貸住宅（44.3%）で高かった。「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（33.3%）、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅（58.3%）、民間の賃貸住宅（53.9%）で高かった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 30.4%であった。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

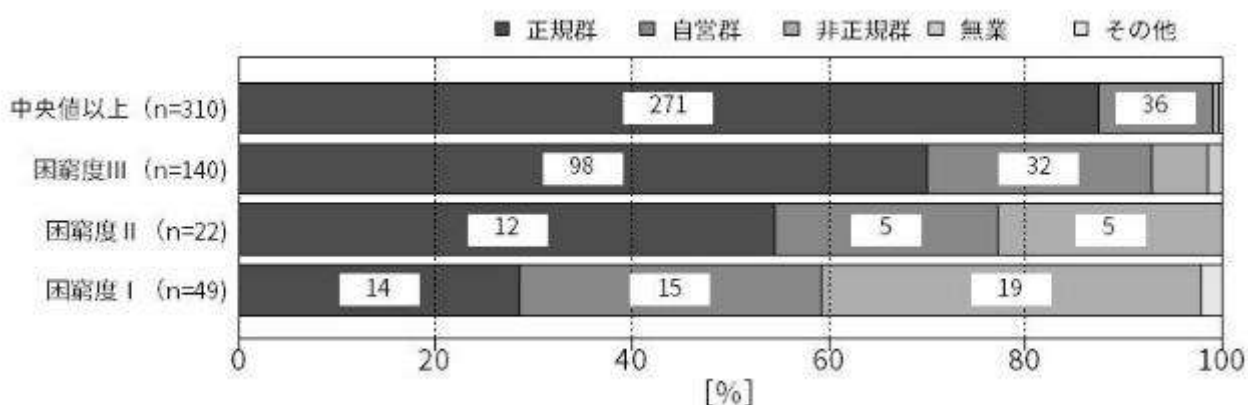


図 172. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」・「非正規群」の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では「正規群」の割合が 28.6%、「非正規群」の割合が 38.8%となっている。

※就労形態は以下のように分類している。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問 9 選択肢 1）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問 9 選択肢 4）、

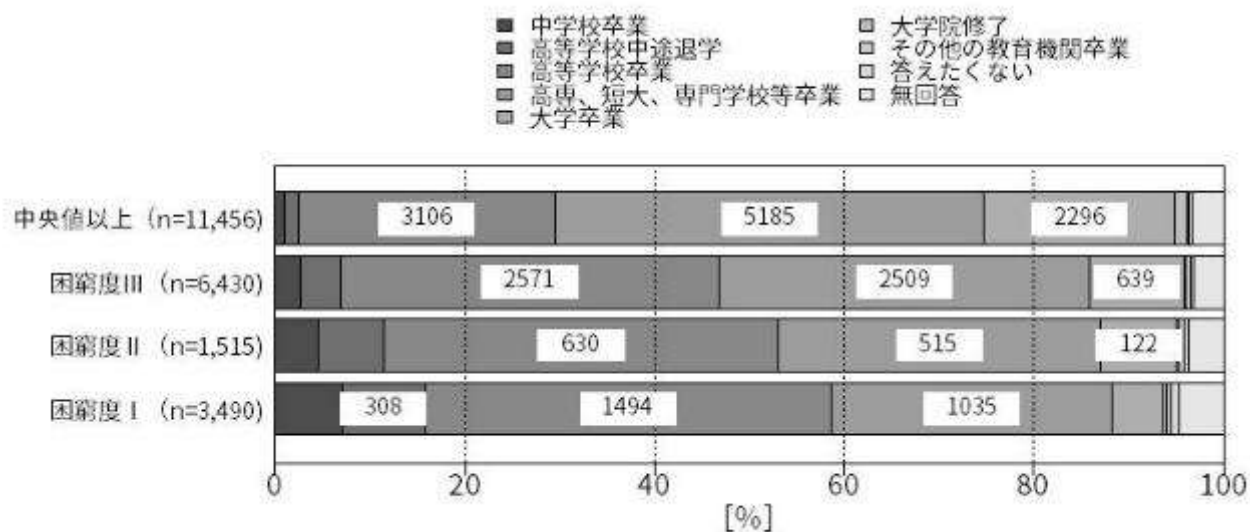
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問 9 選択肢 2、3）、

上記以外で、誰も働いていなければ（問 9 選択肢 6、7）無業。

上記以外がその他 となる。

困窮度別に見た、母親の最終学歴（保護者票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

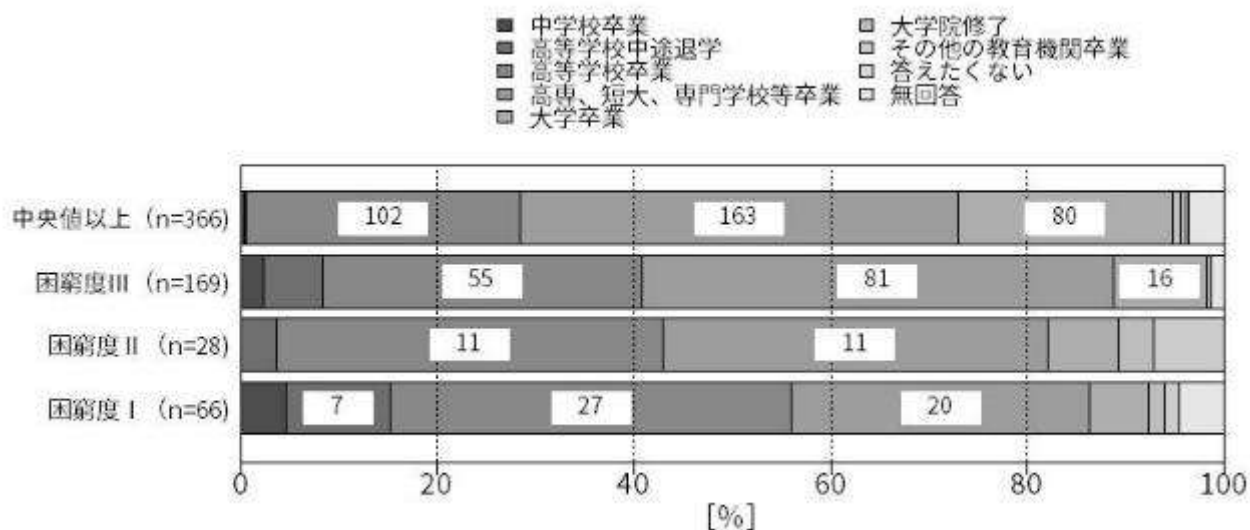
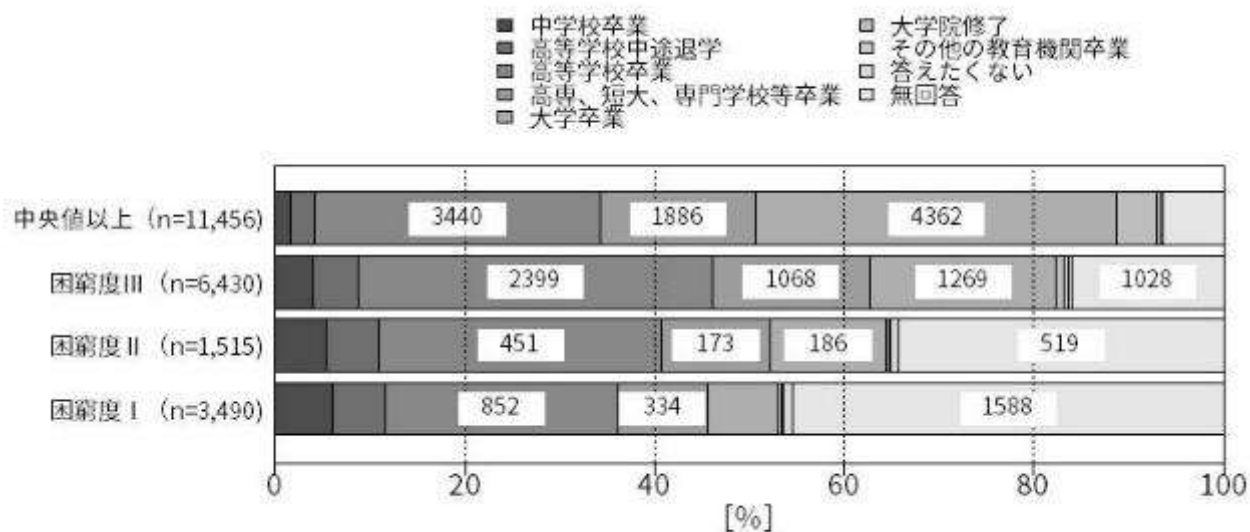


図 173. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群の「中学校卒業」は4.5%、「高等学校中途退学」は10.6%、「高等学校卒業」の割合が40.9%であった。

困窮度別に見た、父親の最終学歴（保護者票 問8）

<大阪市 24 区>



＜大阪市福島区＞

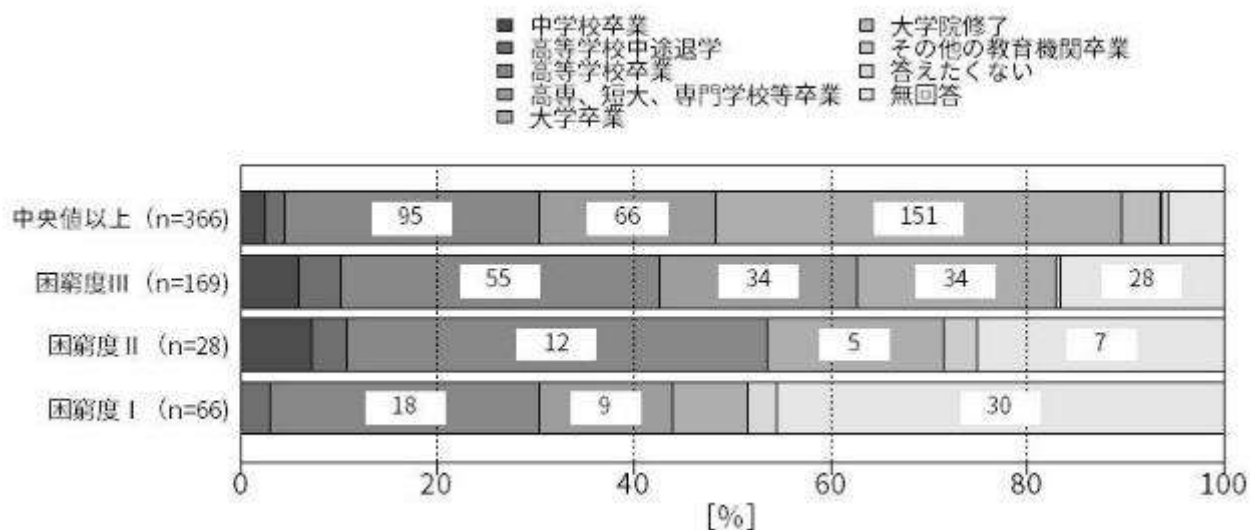
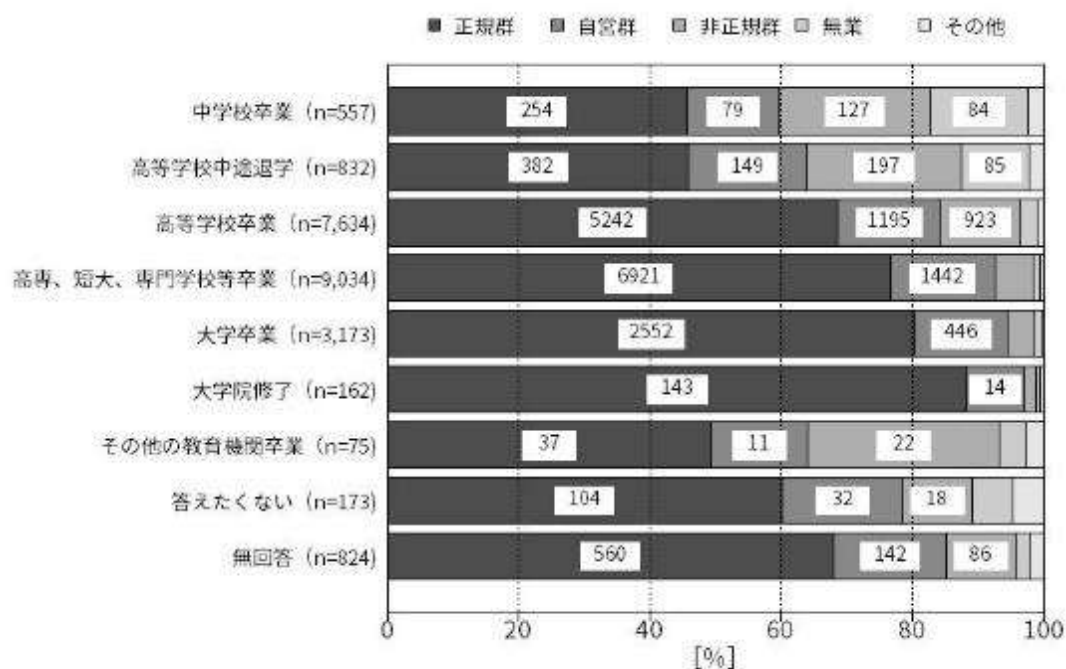


図 174. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると困窮度Ⅰ群では無回答の割合が高い（45.5%）。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問 8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

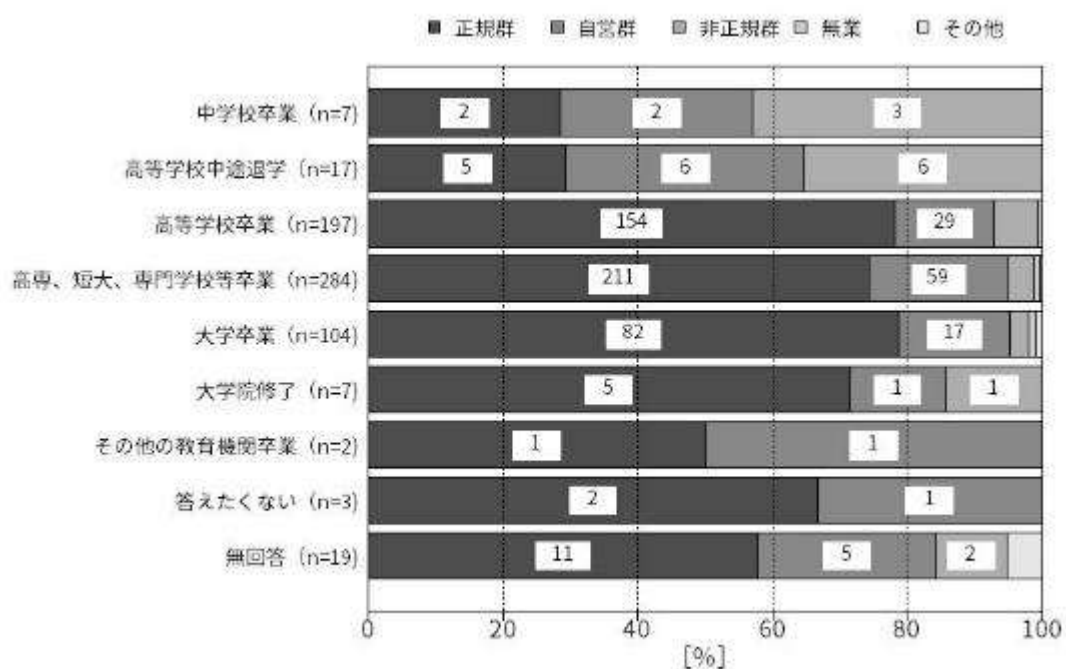
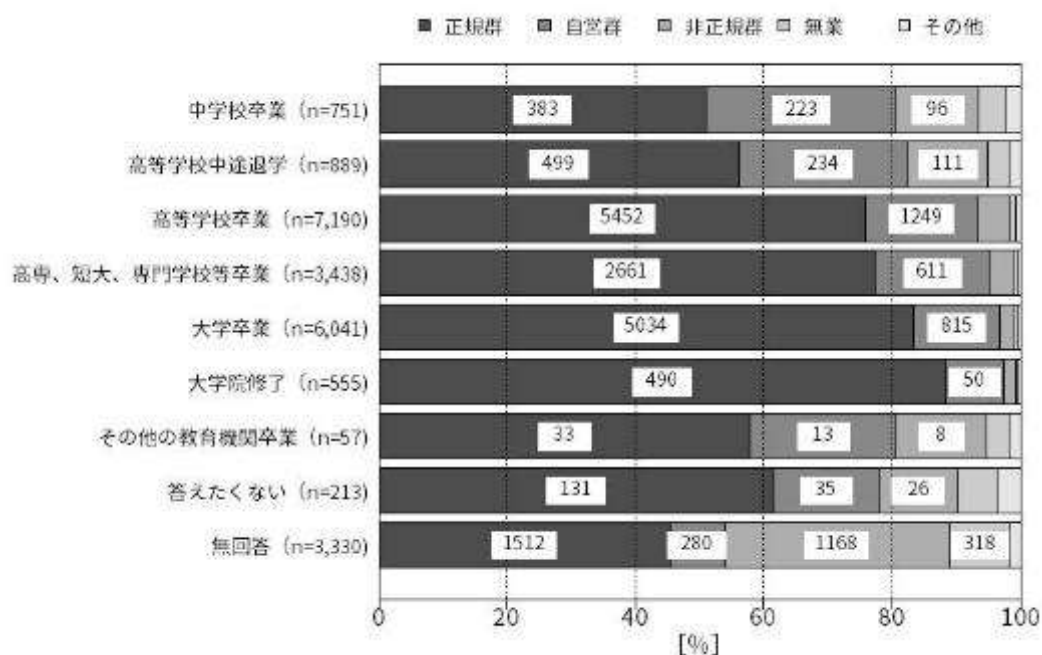


図 175. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、「母親の最終学歴」が「中学校卒業」または「高等学校中途退学」であるとき、「正規群」の割合が低くなっている。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問 8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

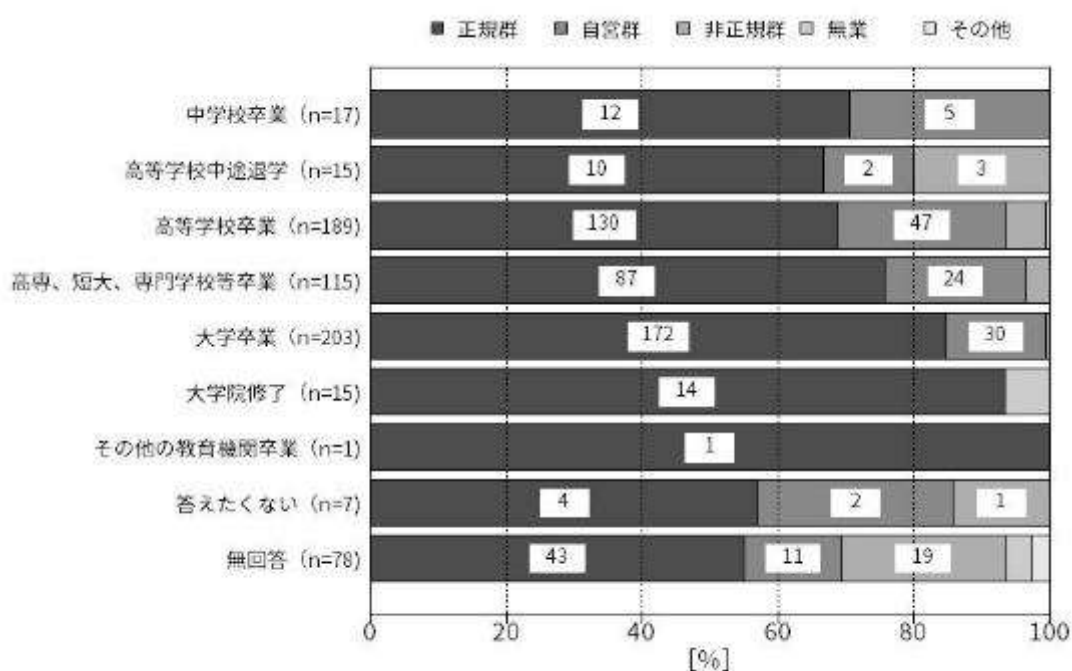
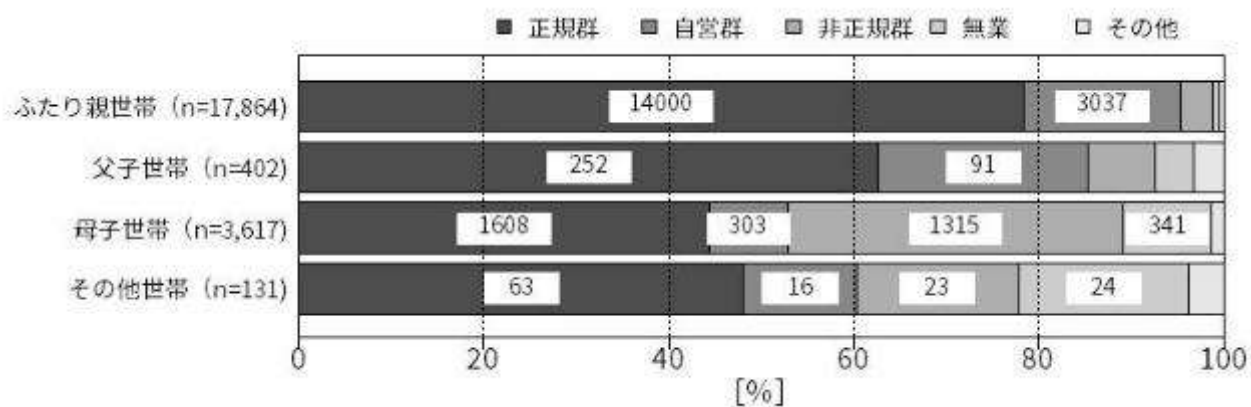


図 176. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「父親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

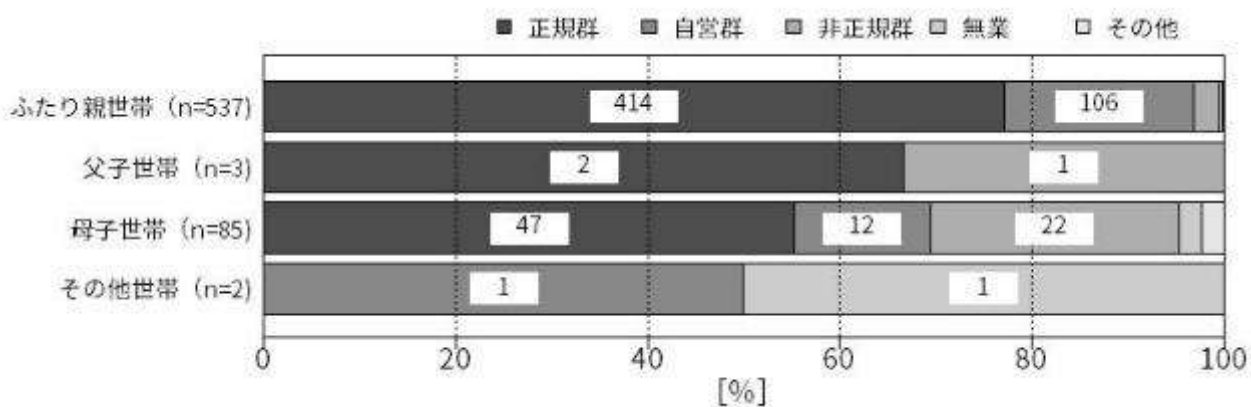
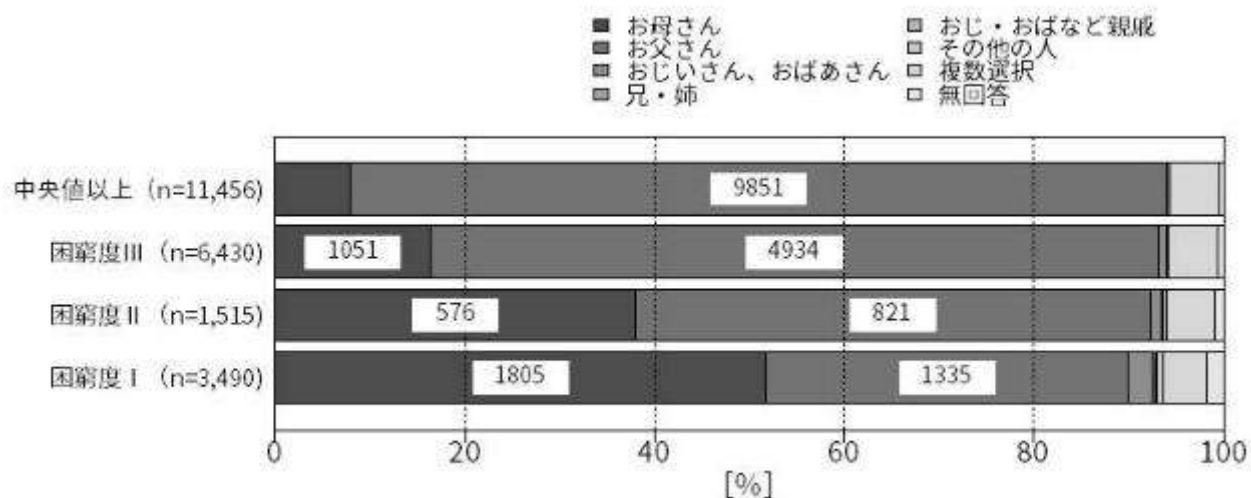


図 177. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が 77.1%であったが、「母子世帯」では 55.3%である。「非正規群」は、「母子世帯」では 25.9%となっている。

困窮度別に見た、生計の支えとなる人（保護者票 問 30(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

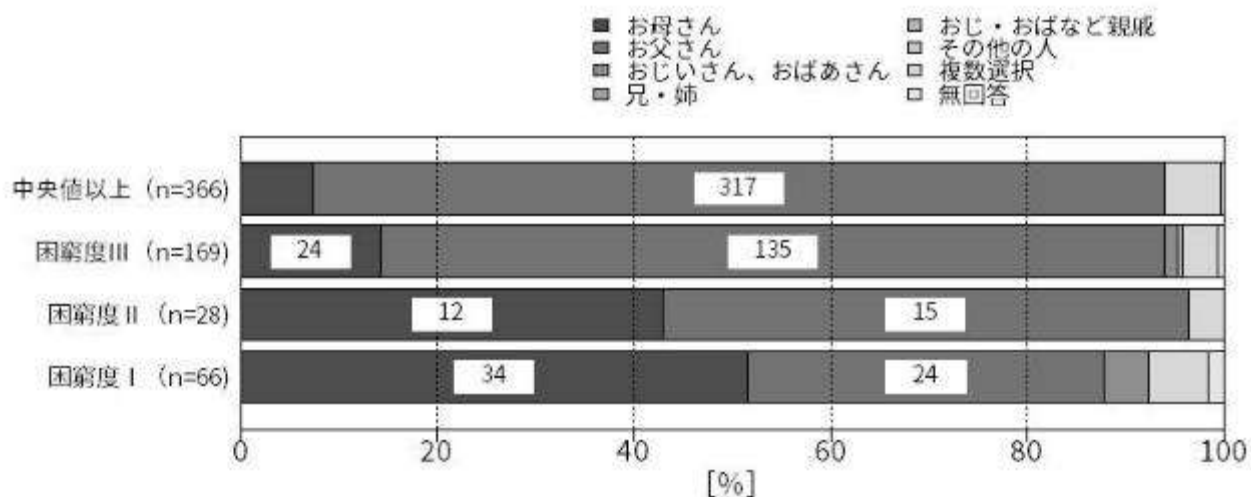
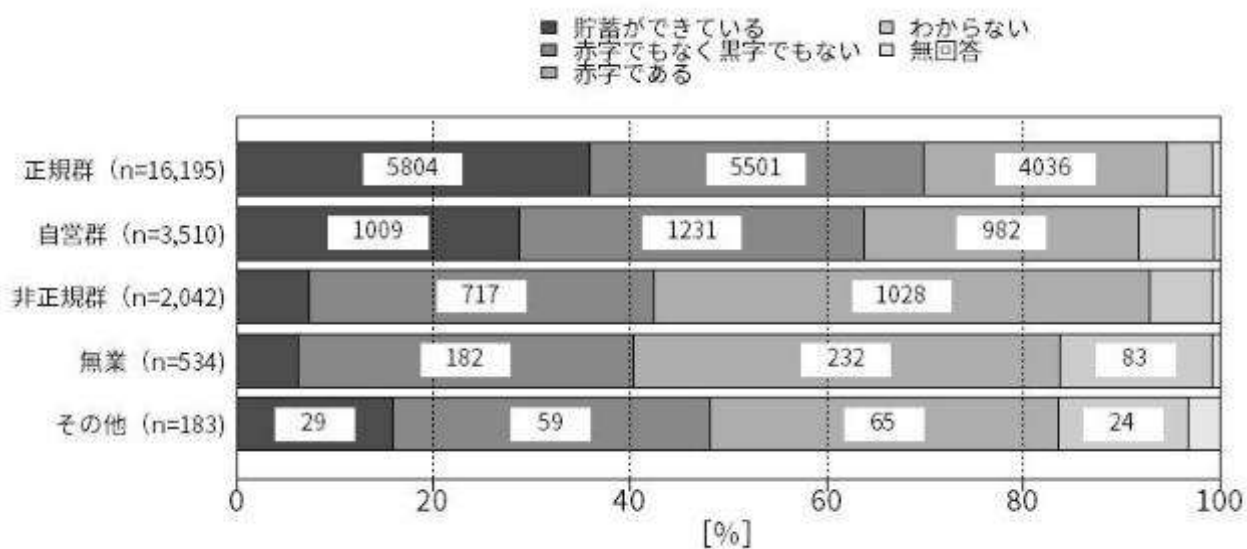


図 178. 困窮度別に見た、生計の支えとなる人

困窮度別に生計の支えとなる人を見ると、中央値以上群では「お父さん」という回答が 86.6%であった。困窮度が高まるにつれ、「お母さん」という回答が多くなる。困窮度Ⅱ群では「お母さん」という回答は 42.9%、困窮度Ⅰ群では 51.5%であった。

就労状況別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

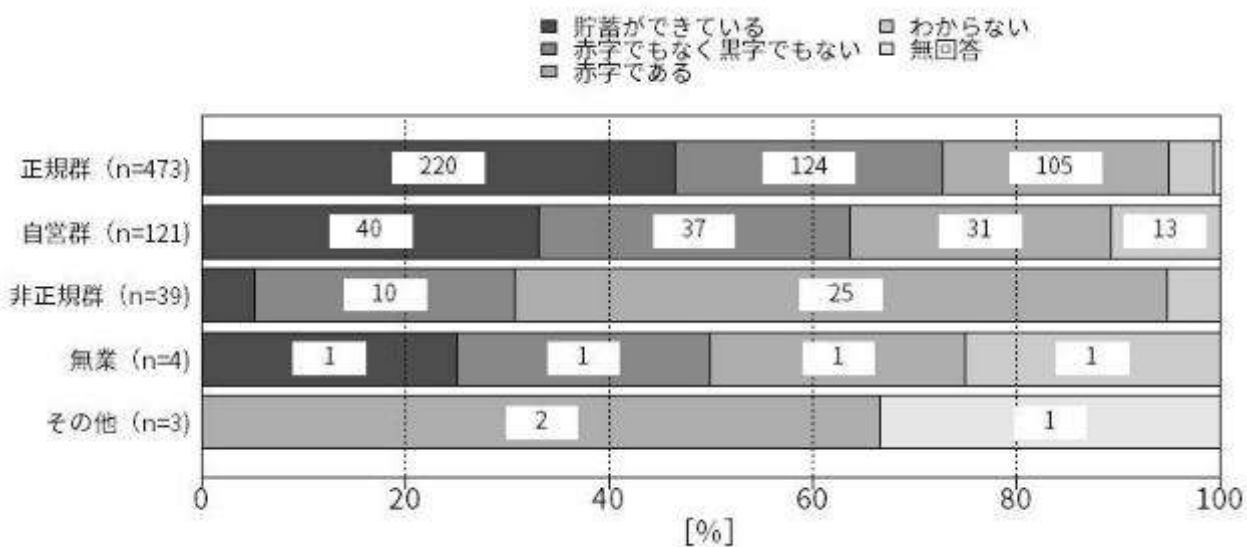


図 179. 就労状況別に見た、家計状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では貯蓄ができていますの割合がそれぞれ、46.5%、33.1%であった。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が64.1%であった。「赤字でもなく黒字でもない」群に大きな差は見られない。

＜雇用に関する考察＞

本調査からは、雇用形態が所得階層の分布に影響を与えていることが明らかになった。中央値以上の群では87.4%が正規雇用であるのに対して、困窮度Ⅰの群ではその割合が半分以下の28.6%であった。正規雇用であるにもかかわらず、困窮度Ⅰの群に該当する者がいるという点については、留意する必要があるだろう。

困窮度と学歴の関係についても、困窮度が高い群ほど、学歴が低いという傾向が見られた。母親が大卒である割合が、中央値以上の群では21.9%であったのに対し、困窮度Ⅰの群では6.1%にとどまっている。中卒、高校中退の割合を比較してみると中央値以上の群では、いずれも0.3%であったのに対し、困窮度Ⅰの群では4.5%、10.6%であった。父親の学歴では困窮者Ⅰの群で無回答の割合が半数近くとなる45.5%であったため、中卒や高校中退での差は見られなかった。しかし、中央値以上の群では大卒が41.3%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では7.6%と、母親と同様の傾向が見られるところもあった。なお、学歴が高い群ほど正規雇用の割合が高い結果となっている。

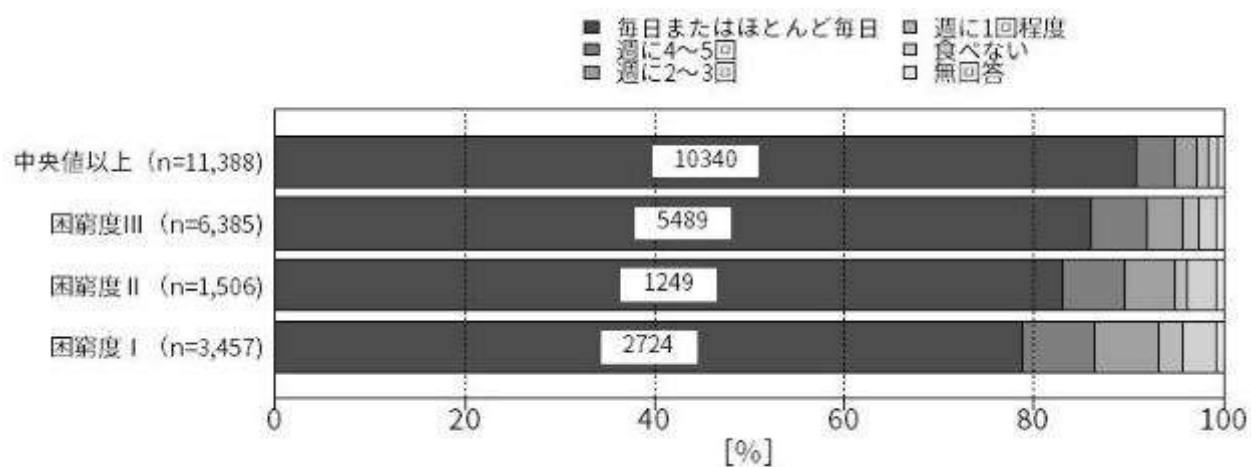
世帯構成と就労状況の関係ではふたり親世帯と比較して、母子世帯では正規雇用の割合が低く、非正規雇用の割合が25.9%と高くなっていた。主たる生計維持者別に困窮度を比較した際に、母親を見ると、困窮度Ⅰの群が51.5%であった。これらの結果から、困窮度が深刻な群において、母子世帯の占める割合が高いことが示されている。

貯蓄状態の格差も見られた。正規雇用の世帯の46.5%は貯蓄ができていると回答したのに対し、非正規の群では64.1%が赤字であると回答した。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票 問5(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

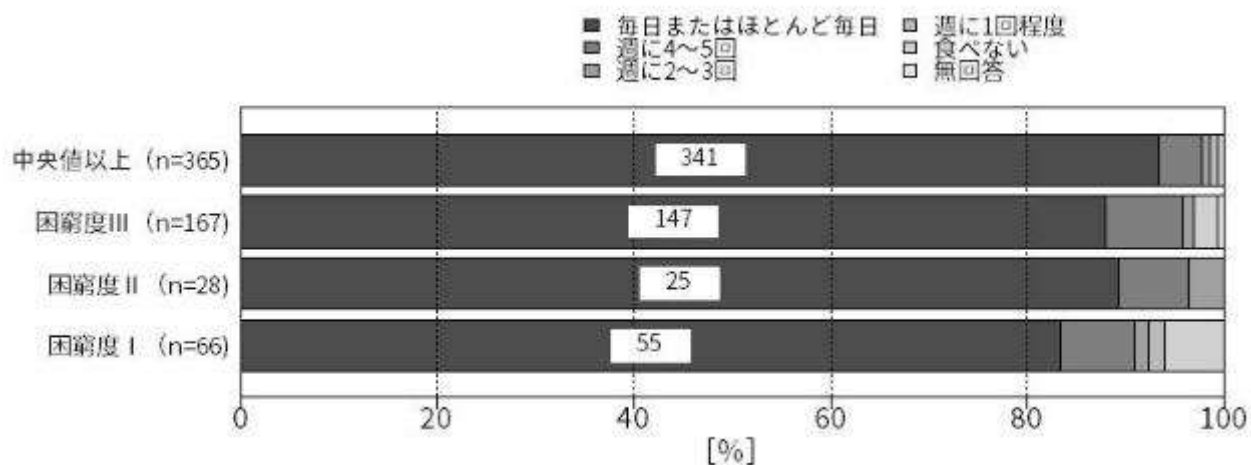
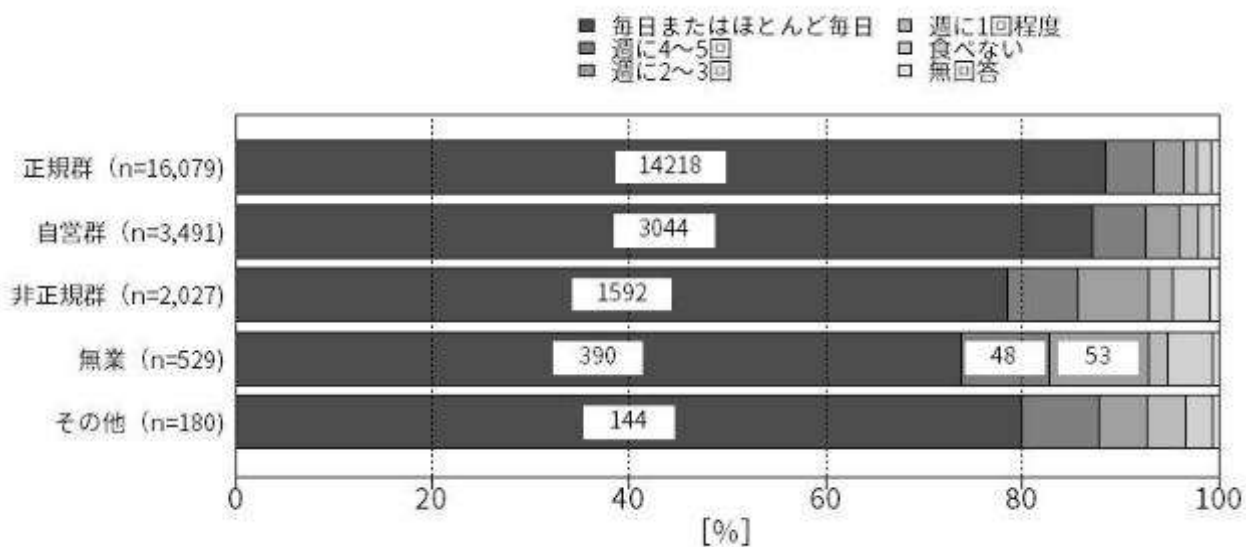


図 180. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度Ⅰ群では、83.3%が「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べると回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票 問5(1)）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

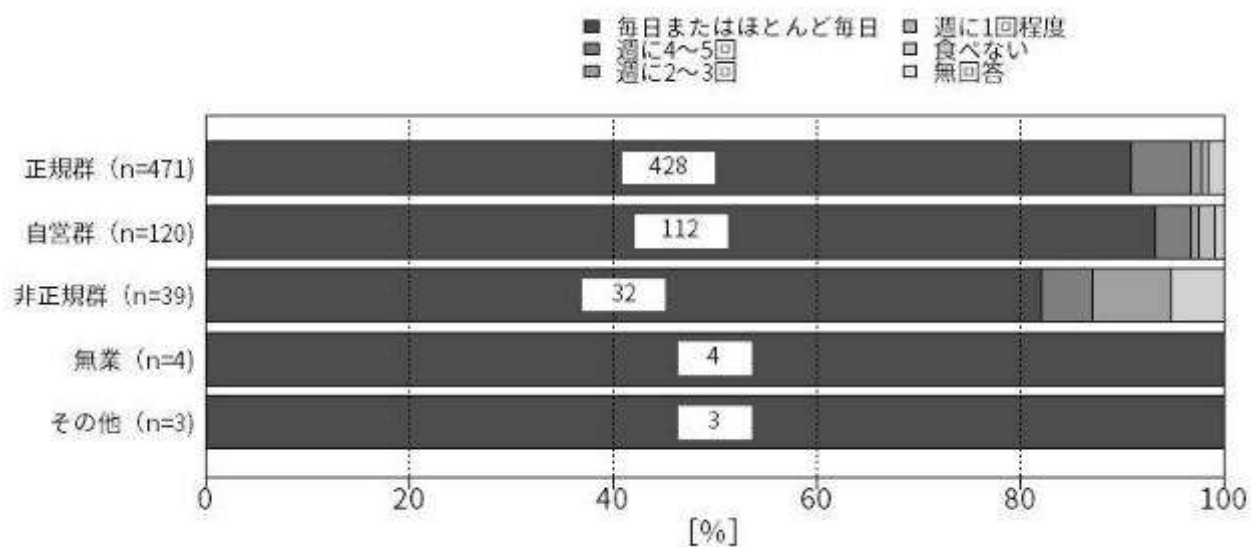
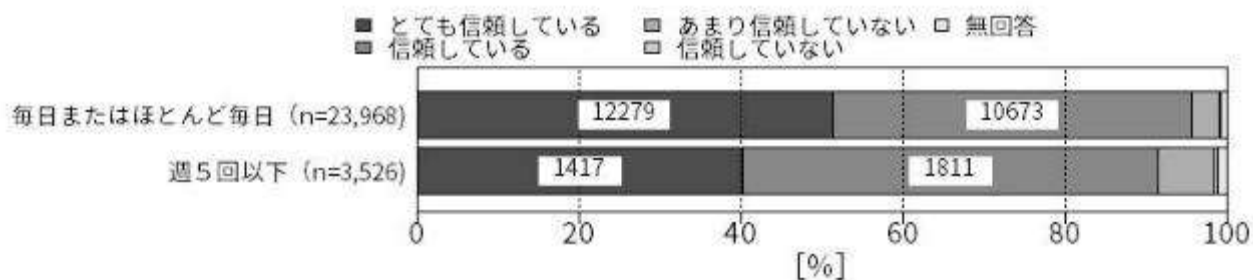


図 181. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」で 90.9%、「自営群」で 93.3%、「非正規群」で 82.1%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）
 （子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

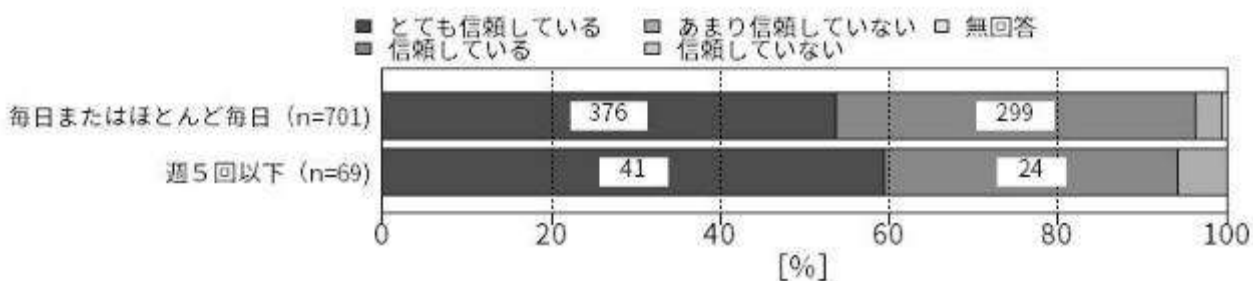
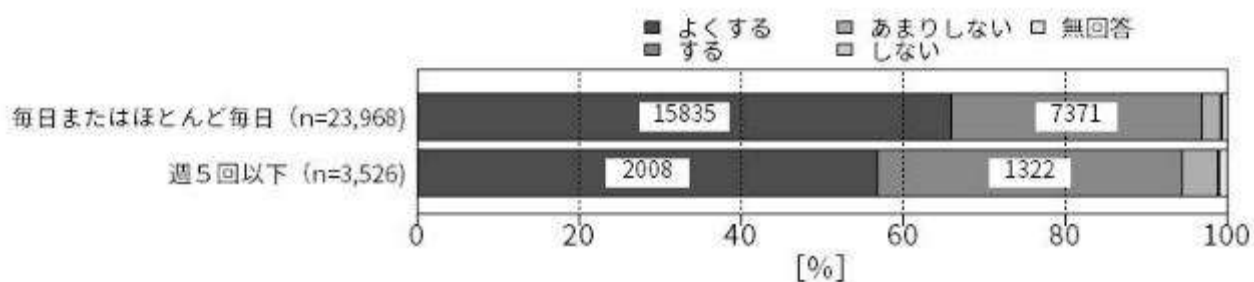


図 182. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が 53.6%であったのに対し、「週 5 回以下」では、「とても信頼している」と回答した人は 59.4%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）
 （子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

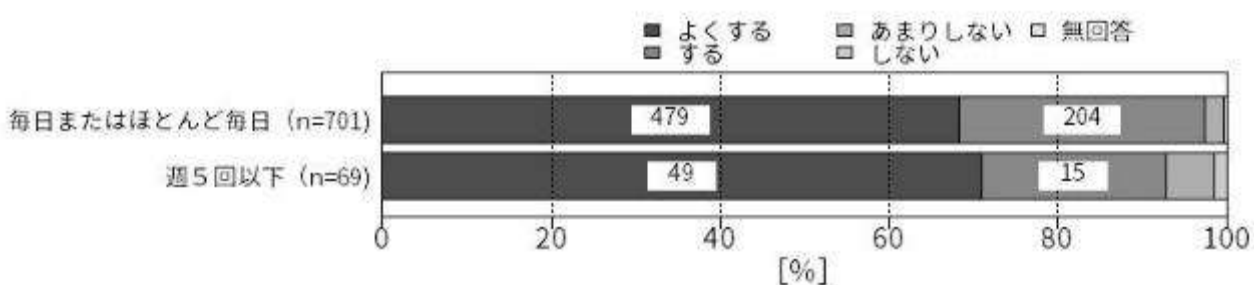
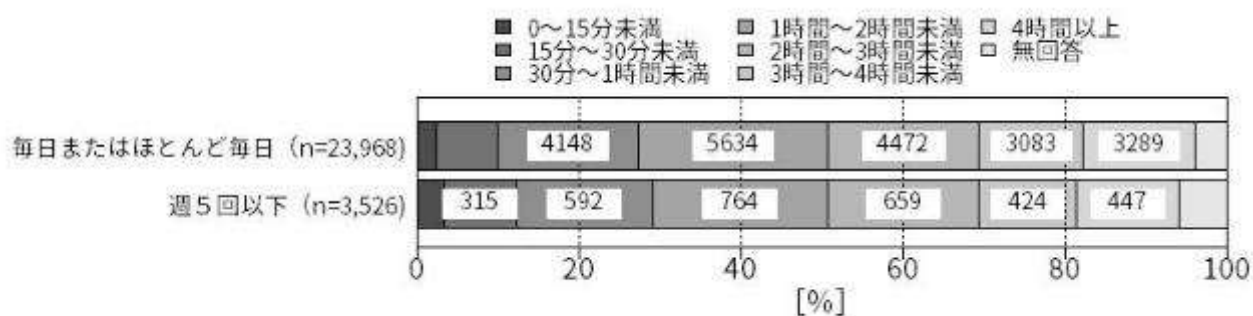


図 183. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が 68.3%であり、「週5回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は 71.0%である。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

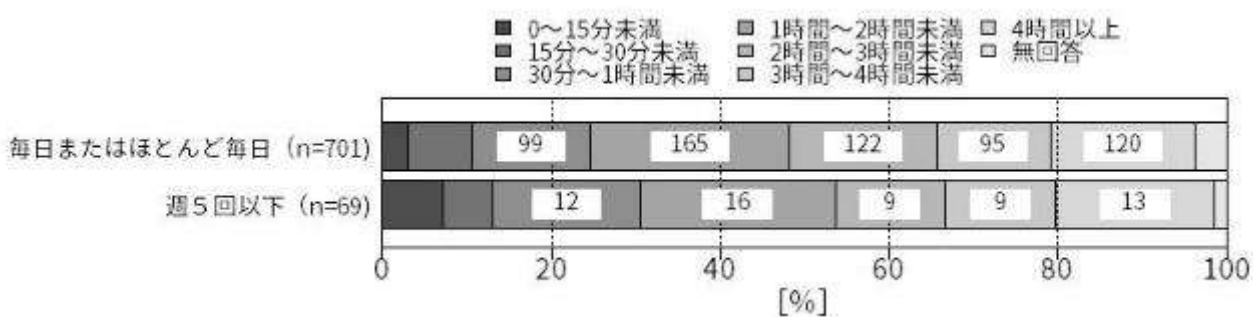
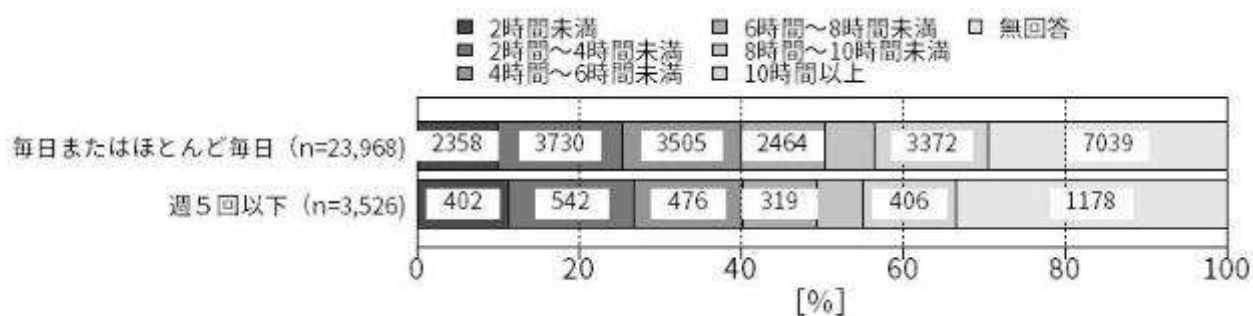


図 184. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが「週5回以下」の人よりも平日に子どもと一緒にいる時間がやや長くなっている傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

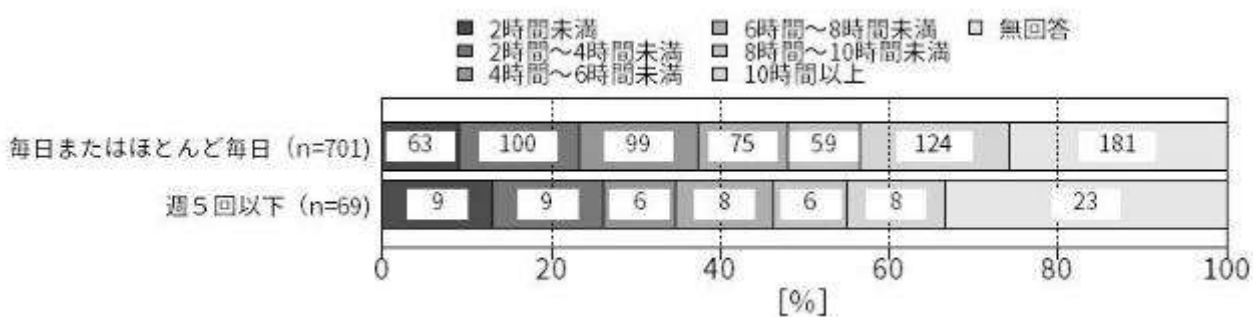
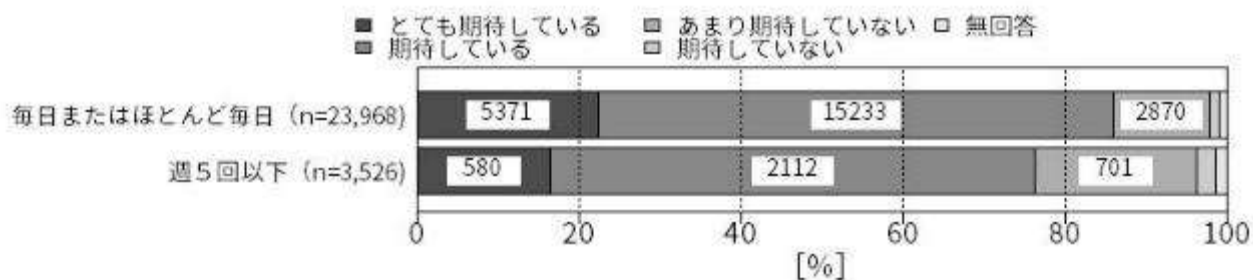


図 185. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（休日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが、「週5回以下」の人よりも休日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

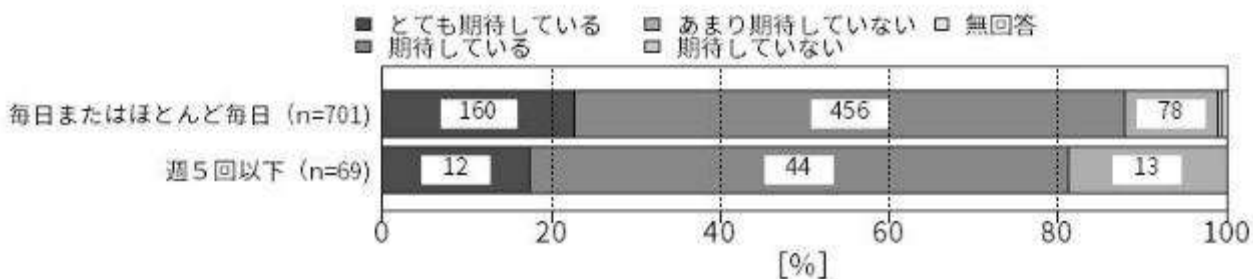


図 186. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、87.8%であったのに対して、「週5回以下」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて81.2%であった。